
中近世における宗教運動とメディア・世界認識・社会統合：歴史研究の総合的アプローチ

領域番号：20B103

令和2年度～令和4年度

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）

（学術変革領域研究（B））

研究成果報告書

令和6年5月31日

領域代表 大貫 俊夫

東京都立大学・人文科学研究科・准教授

はしがき

本プロジェクトは、中世・近世のヨーロッパ、アメリカ大陸、日本におけるキリスト教修道制、そして中世日本の寺社を研究対象とし、修道士、仏僧および神職がメディアを創出・活用し、文化・思想的な革新運動を展開したことについて、文化圏横断型の比較研究をするものである。歴史学とその隣接諸分野の成果を見渡すと、修道士たちは修道戒律、説教などの文書のほか、文学作品、彩飾写本、聖堂装飾、あるいは巡礼などの仕組みも含め、多種多様な形態のメディアを駆使して自らの宗教理念を発信していたことが分かる。しかし、こうした努力がいかに社会を統合・規律化し、あるいはまた社会に持続性と弾力性を与えてきたかについては、より体系的な研究が求められる。修道士や仏僧および神職は、宗教的超越を指向しつつ、司牧／教化を通じた社会変革への意思と行動力によって多種多様なメディアを創造し、社会に対して革新的な世界認識と仕組みをもたらし、社会の持続的発展に貢献したのではないか。こうした現象を異なる宗教文化のあいだで共時的・通時的に比較することで、各々の個性がきわだち、より広い視野から宗教運動と当該社会とのあいだのダイナミックな影響関係が明らかになるのではないか。本研究領域は、この観点を4つの計画研究班で共有し、各計画研究班は以下の3つの目的を設定して宗教運動の文明史的な意義を体系的に明らかにしようと試みた。

1. 中近世において宗教運動を先導した人々は、宗教共同体の内外でコミュニケー

ションを促進するために、いかなるメディア（媒介物＝文字テキスト、図像、仕組みなど）を創出し普及させたのかを明らかにする。

2. 宗教者は、1. のメディアを通じてどのような言説を宗教共同体の内外に向けて発信し、またどのような価値観と世界認識の仕方を新たにもたらしたのかを明らかにする。

3. そして最後に、宗教者は1. と2. を通していかに社会の教化を推進し、社会を統合し、文明に変動をもたらしたのかを明らかにする。

研究組織

計画研究

領域代表者 大貫 俊夫（東京都立大学・人文科学研究科・准教授）

（総括班）

研究代表者 大貫 俊夫（東京都立大学・人文科学研究科・准教授）

研究分担者 赤江 雄一（慶應義塾大学・文学部・教授）

研究分担者 武田 和久（明治大学・政治経済学部・准教授）

研究分担者 苅米 一志（就実大学・人文科学部・教授）

（観想修道会班）

研究代表者 大貫 俊夫（東京都立大学・人文科学研究科・准教授）

研究分担者 菊地 重仁（東京大学・人文社会系研究科・准教授）

研究分担者 金沢 百枝（多摩美術大学・美術学部・教授）

研究分担者 安藤 さやか（東京藝術大学・美術研究科・専門研究員）

研究分担者 山本 潤（東京大学・人文社会系研究科・准教授）

研究協力者 片山 幹生（大阪市立大学・文学研究科・研究員）

研究協力者 北舘 佳史（中央大学・文学部・兼任講師）

研究協力者 林 賢治（アルベルト・ルートヴィヒ大学フライブルク・博士課程）

研究協力者 三浦・麻美（東洋大学・人間科学総合研究所・客員研究員）

（托鉢修道会班）

研究代表者 赤江 雄一（慶應義塾大学・文学部・教授）

研究分担者 梶原 洋一（京都産業大学・文化学部・准教授）

研究分担者 原 基晶（東海大学・文化社会学部・准教授）

研究分担者 駒田 亜紀子（実践女子大学・文学部・教授）

研究協力者 白川 太郎（早稲田大学・文学学術院・助手）

（イエズス会班）

研究代表者 武田 和久（明治大学・政治経済学部・准教授）

研究分担者 折井 善果（慶應義塾大学・法学部・教授）

研究分担者 平岡 隆二（京都大学・人文科学研究所・准教授）

研究分担者 浅野 ひとみ（長崎純心大学・人文学部・教授）

研究分担者 シュウェマー パトリック（武蔵大学・人文学部・准教授）

研究協力者 石川 博樹（東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・

准教授)

研究協力者 岡田 正彦 (天理大学・人間学部・教授)

研究協力者 小俣ラポー 日登美 (京都大学・白眉センター／人文科学研究所・

白眉特定准教授)

研究協力者 アンドレス メナチェ (京都大学・文学研究科・博士課程)

(日本中世寺社班)

研究代表者 苅米 一志 (就実大学・人文科学部・教授)

研究分担者 川崎 剛志 (就実大学・人文科学部・教授)

研究分担者 佐々木 守俊 (清泉女子大学・文学部・教授)

研究分担者 守田 逸人 (香川大学・教育学部・教授)

研究分担者 服部 光真 (元興寺文化財研究所・研究員)

研究分担者 小林 郁 (皇學館大学・研究開発推進センター・助教)

研究協力者 藤本 誠 (慶應義塾大学・文学部・准教授)

研究協力者 湯浅 治久 (専修大学・文学部・教授)

研究協力者 上野 進 (徳島文理大学・文学部・教授)

研究協力者 鎌倉 佐保 (東京都立大学・人文科学研究科・教授)

研究協力者 千枝 大志 (同朋大学・仏教文化研究所・客員所員)

交付決定額（配分額）

	合計	直接経費	間接経費
令和 2 年度	4,810,000 円	3,700,000 円	1,110,000 円
令和 3 年度	3,120,000 円	2,400,000 円	720,000 円
令和 4 年度	4,420,000 円	3,400,000 円	1,020,000 円
総計	12,350,000 円	9,500,000 円	2,850,000 円

研究発表

雑誌論文

A01

1. 菊地重仁「記録を残し記憶が残る：カロリング期の史料と中世におけるカロリング期にまつわる過去の想起」『西洋中世研究』12、2020 年、2-18 頁（査読あり）
2. 北館佳史「12 世紀のシトー会シルヴァネス修道院の歴史叙述における起源の記憶」『人文研紀要』96、2020 年、1-27 頁（査読なし）
3. 北館佳史「『オバジーヌの聖エティエンヌ伝』試訳(2)」『紀要』（中央大学文学部）281、2020 年、77-100 頁（査読なし）
4. 片山幹生「タイトルに見る『葉陰の劇』の重層性」『Études françaises』28、2021 年、1-19 頁（査読なし）
5. 北館佳史「聖トマス・ベケットの約束と巡礼地の誕生：ポンティニーの聖エドマンド崇敬をめぐる論争」『人文研紀要』98、2021 年、185-208 頁（査読なし）
6. 北館佳史「『オバジーヌの聖エティエンヌ伝』試訳(3)」『紀要』（中央大学文学部）286、2021 年、39-63 頁（査読なし）
7. 三浦麻美「呪詛ではなく祝福を—マンスフェルト伯家と家門修道院ヘルフタに見る 13 世紀末の紛争と和解—」『西洋中世研究』12、2020 年、128-143 頁（査読あり）

8. 安藤さやか「カロリング朝期写本の物語イニシアル——基礎資料と研究動向——」『千葉大学人文研究』51、2022 年、123-148 頁（査読あり）
9. 金沢百枝「行為の詩学 アルフレッド・ジェルを手がかりに」『Art Anthropology』17、2022 年、53-56 頁（査読なし）
10. 北舘佳史「12 世紀末のフォンテーヌ・レ・ブランシュ修道院の歴史叙述—共同体の過去の再構成と財産の保護—」『人文研紀要』（中央大学人文科学研究所）101、2022 年、1-28 頁（査読なし）
11. 北舘佳史「『オバジーヌの聖エティエンヌ伝』試訳（四）」『紀要』（中央大学文学部）291、2022 年、113-137 頁（査読なし）
12. 林賢治「12 世紀の修道院における両性の共存と書物管理の様相：ギルバート会の綱要に現れる対称と非対称」『歴史学研究』1029、2022 年、50-58 頁（査読あり）
13. 三浦麻美「幻視者の誕生—中世盛期ヘルフタ修道院に見る学問と回心—」『西洋史研究』51、2022 年、27-47 頁（査読あり）
14. 安藤さやか「Das Erbe der karolingischen Buchmalerei: Initialornamentik der illuminierten Handschriften aus Corvey」『東京芸術大学西洋美術史研究室紀要』21、2023 年、7-22 頁（査読なし）
15. 片山幹生「文学的寓意としての中世ハーブ：ギヨーム・ド・マショー『ハーブの

賦（ディ）』読解』『Études Françaises』30、2023年、20-34頁（査読なし）

16. 北舘佳史「クレルヴォー修道院の祭壇と聖遺物」『人文研紀要』（中央大学人文科学研究so）106、2023年、127-156頁（査読なし）

17. 三浦麻美「Building a Center of Pilgrimage: St. Elisabethkirche in Marburg and Indulgence in the Thirteenth Century」『人文研紀要』（中央大学人文科学研究so）106、2023年、21-37頁（査読なし）

18. 山本潤「「怒り zorn」と「敵意 haz」：中世叙事文学に見る感情の表象するもの」『西洋中世研究』15、2023年、16-32頁（査読あり）

19. Jun Yamamoto, “Historizität der mittelhochdeutschen Heldendichtung: Eine Analyse aus der Perspektive des historiographischen Geschichtsverständnisses,” Neue Beiträge zur Germanistik Band 21/ Heft 1, Japanische Gesellschaft für Germanistik (Hrsg.), München: iudicium Verlag, 2023, S. 14-32（査読あり）

A02

20. 赤江雄一「環境史の鍵概念としての主観性と史料探索の今」『史学』89:1-2、2020年、137-145頁（査読なし）

21. 荒本文果「Filippino Lippi in the Brancacci Chapel」『人文科学』（慶應義塾大学日吉紀要）36、2021年、1-26頁（査読なし）

22. 梶原洋一「中世ドミニコ会における修学のための移動」『歴史学研究』1012、
2021 年、31-40 頁（査読あり）
23. 駒田亜紀子「『十三世紀フランス語聖書』（Bible française du XIIIe siècle）彩飾写
本研究：オクスフォード、クライスト・チャーチ図書館所蔵《新約聖書》におけ
るヨハネ伝挿絵について」『実践女子大学美術美術史学』36、2022 年、1-15 頁
（査読なし）
24. 白川太郎「福音的イタリア」とリソルジメント：自由主義期のヴァルド派牧師エ
ミーリオ・コンバとその歴史叙述」『史観』184、2020 年、72-98 頁（査読あり）
25. 白川太郎「グリエルマとマイフレダの異端：13 世紀末ミラノにおける信仰・政
治・社会」『西洋史学』271、2021 年、1-21 頁（査読あり）
26. 白川太郎「故郷における預言者：キアラ・ダ・モンテファルコをめぐる崇敬・対
立・権力」『西洋中世研究』13、2021 年、79-99 頁（査読あり）
27. 白川太郎「アポストリ研究の諸前提：史料論と研究史」『西洋史論叢』43、2021
年、73-92 頁（査読なし）
28. 荒本文果「Illuminated Manuscripts Frescoed in the 15th Century in Rome: Rivalry
between Two Major Mendicant Orders」『人文科学』（慶應義塾大学日吉紀要）
37、2022 年、37-65 頁（査読なし）
29. 原基晶「『地獄篇』第三歌と第四歌の場面転換：書かれていない場面を読むこと」

『世界文学』135、2022 年、1-9 頁（査読あり）

30. 駒田亜紀子「『十三世紀フランス語聖書』(Bible française du XIIIe siècle) 彩飾写本研究：13 世紀後半におけるパリ彩飾写本市場の変容」『実践女子大学美術史学』37、2023 年、1-11 頁（査読なし）
31. Taro Shirakawa, “Discretio, prophetia, e Chiara da Montefalco: l’attività direzionale di una santa viva,” *Ricerche storiche* 53:1 (2023), pp. 79-96（査読あり）
32. Taro Shirakawa, “Heresy of Guglielma and Maifreda: Devotion, Politics, and Society at the End of the 13th Century Milan,” *Historical Studies of the Western World* 2 (2023), pp. 3-27（査読あり）
33. Taro Shirakawa, “A Waldensian Pastor Between the Confessional Myth and National Genealogy: History and Religious Reform in Emilio Comba (1839–1904).” *Church History* 92 (2023), pp. 865-885（査読あり）
34. 赤江雄一「「感情の共同体」としての学識ある聖職者：14 世紀の説教の聴衆」『西洋中世研究』15、2023 年、6-15 頁（査読あり）
35. 原基晶「ダンテとは誰なのか：『神曲』解釈の第一歩として」『文明』（東海大学文明研究所）32、2024 年、73-78 頁（査読なし）

36. 浅野ひとみ「キリシタン遺物に見るイスパニア世界」『美術フォーラム 21』43、
2021 年、46-52 頁（査読なし）
37. 石川博樹「16～18 世紀のエチオピア北部におけるテフの消費拡大とインジェラの
成立」『農耕の技術と文化』30、2021 年、1-35 頁（査読あり）
38. 石川博樹「ローマ・カトリック的地獄・煉獄の受容をめぐる 2 つのイエズス会布
教の比較：武田和久氏の報告へのコメント」、『メトロポリタン史学』17、2021
年、127-130 頁（査読なし）
39. 小俣ラポー日登美「イエズス会の公的殉教観を『イエズス会の百年像』（1640）
からひもとく——日本の代表的な殉教者としてのカルロ・スピノラ像」『キリシタ
ン文化研究会会報』155、2020 年、1-44 頁（査読あり）
40. 小俣ラポー日登美「絵はことばを裏切る——ニコラ・トリゴー『日本殉教史』
（1623/1624）の挿絵とテキスト」『京都市立芸術大学美術学部紀要』65、2021
年、49-67 頁（査読なし）
41. 小俣ラポー日登美「『偶像崇拜』の地・日本——近世フランスの思想家ルイ・リシ
ヨームの言説から」『佛教大学歴史学部論集』11、2021 年、45-65 頁（査読な
し）
42. 小俣ラポー日登美「17-18 世紀日欧間の聖遺物の旅」『メトロポリタン史学』17、
2021 年、5-38 頁（査読あり）

43. 折井善果「フランス国会図書館蔵『サントスの御作業』（1591 年）について」『キリシタン文化研究会会報』157、2021 年、15-22 頁（査読なし）
44. 武田和久「キリスト教的地獄観の流用（アプロプリエーション）とアメリカ先住民－17-18 世紀スペイン領南米ラプラタ地域のイエズス会布教区を中心に－」『メトロポリタン史学』17、2021 年、87-103 頁（査読あり）
45. Guillermo Wilde and Kazuhisa Takeda, “Tecnologías de la memoria: mapas y padrones en la configuración del territorio guaraní de las misiones,” *Hispanic American Historical Review* 101:4 (2021), pp. 597-627（査読あり）
46. アンドレス・メナチェ「聖フランシスコ・デ・ザビエル書簡における僧侶像：好意的な印象から好戦的な態度へ」『アジア・キリスト教・多元性』18、2020 年、13-27 頁（査読あり）
47. Hiroki Ishikawa, “Increase in Teff Consumption in Northern Ethiopia between the 16th and 18th Centuries and the Birth of Injera,” *African Study Monographs. Supplementary Issue* 61 (2023), pp. 7-40（査読あり）
48. Ryuji Hiraoka, “The Discovery and Significance of Sufera no nukigaki (Selection on the Sphere), a Jesuit Cosmology Textbook in Japanese Translation,” *Historia scientiarum* 32: 2 (2023), pp. 88-116（査読あり）
49. Ryuji Hiraoka (ed.), Special issue: East-West Contacts and Scientific Culture in

Early Modern East Asia 2, *Historia scientiarum* 32:2 (2023) (査読あり)

50. 小俣ラポー日登美「キャンセル・カルチャーの標的となる歴史概念」『現代思想』、2023 年、70-77 頁 (査読なし)
51. パトリック・シュウエマー「キリシタン聖人伝の日欧の原典 (上)」『キリシタン文化』159、2022 年、21-44 頁 (査読あり)
52. パトリック・シュウエマー「キリシタン聖人伝の日欧の原典 (下)」『キリシタン文化』160、2022 年、1-19 頁 (査読あり)
53. パトリック・シュウエマー「北米英語圏における軍記・語り物の研究」『軍記と語り物』58、2022 年、1-19 頁 (査読あり)
54. Masahiko Okada, “The Founder of Toshiba, Tanaka Hisashige and Buddhist Astronomy: The Modernization of Japan and the Traditional Conception of the Universe,” *Historia scientiarum* 32:2 (2023), pp. 139-156 (査読あり)
55. 岡田正彦「井上円了と社会改良の夢：『哲学飛将碁』をめぐって」『井上円了研究センター年報』31、2023 年、111-132 頁 (査読なし)
56. Hitomi Omata Rappo, “From the Cross to the Pyre: The Representation of the Martyrs of Japan in Jesuit Prints,” *Journal of Jesuit Studies* 10:3 (2023), pp. 456-486 (査読あり)
57. 小俣ラポー日登美「山伏に擬せられたイエズス会士：とある啓蒙思想家から見た

日本』『人文学報』121、2023年、79-113頁（査読なし）

58. 小俣ラポー日登美「奇跡を実験する——トリノ聖骸布を〈検証／顕彰〉する科学」『現代思想』51:12、2023年、72-81頁（査読なし）
59. 岸本恵実、折井善果「キリシタン版『さるばとるむんぢ』ユトレヒト大学本の発見：思想史およびキリシタン語学からの検討」『大阪大学大学院人文学研究科紀要』1、2024年、183-217頁（査読なし）
60. 平岡隆二「開陽丸引き揚げ文書と梅文鼎『曆算全書』」『洋学』30、2023年、159-165頁（査読あり）

B01

61. 苅米一志「備前頓宮氏についての基礎的考察」『吉備地方文化研究』31、2021年、1-44頁（査読なし）
62. 鎌倉佐保「紀伊国阿豆川荘とその史料（後篇）—建治相論の再検討—」『人文学報』517-9、2021年、1-32頁（査読なし）
63. 鎌倉佐保「紀伊国阿豆河荘とその史料（続篇）—高野山金剛峯寺の旧領回復訴訟をめぐって—」『人文学報』518-9、2022年、1-25頁（査読なし）
64. 小林郁「神宮御師に関する新出資料群の基礎的研究」『神道宗教』261、2021年、139-141頁（査読なし）

65. 佐々木守俊「月輪の像内納入について」『仏教芸術』6、2021 年、59-76 頁（査読あり）
66. 服部光真「古代の山寺を語る史料―古代の壺坂寺と『南法華寺古老伝』」『季刊考古学』156、2021 年、90-93 頁（査読なし）
67. 服部光真「近世前期の都市寺院における惣寺と寺僧―南都十輪院と瓦竈法寿庵―」『元興寺文化財研究所研究報告 2021』元興寺文化財研究所、2021 年、47-56 頁（査読なし）
68. 藤本誠「『東大寺諷誦文稿』の再検討―病者（障害者）・路辺遺棄者・貧窮者等を中心として―」『日本仏教総合研究』18、2020 年、15-40 頁（査読あり）
69. 守田逸人「香川大学図書館神原文庫と所蔵史料について」『古文書研究』90、2020 年、106-115 頁（査読なし）
70. 湯浅治久「戦国史研究における地域社会の描き方」『歴史評論』852、2021 年、31-39 頁（査読なし）
71. 湯浅治久「日本中世における贈与社会論をめぐって」『歴史評論』861、2021 年、59-73 頁（査読なし）
72. 佐々木守俊「新造された小仏像の像内納入について」『清泉女子大学紀要』70、2023 年、17-36 頁（査読なし）
73. 佐々木守俊「浄瑠璃寺吉祥天立像の納入摺仏について」『パラゴネ』10、2023

年、33-42 頁（査読なし）

74. 小林郁「神宮御師橋村家資料における新出の中世道者売券について」『皇學館大学
研究開発推進センター紀要』9、2023 年、331-336 頁（査読なし）
75. 藤本誠「『日本靈異記』の成立一日中の仏教説話集の編纂意識を手がかりとして
一」『仏教文学』47、2022 年、41-52 頁（査読あり）
76. 藤本誠「古代地方寺院の性格と機能—地方豪族と住僧の検討を中心として—」『史
学』91-3、2022 年、1-36 頁（査読あり）
77. 藤本誠「『東大寺諷誦文稿』における孝子伝的記述の特質—抹消（擦消）の意味と
史的背景をめぐって—」『古代文学』62、2023 年、83-99 頁（査読あり）
78. 鎌倉佐保「「開発領主」と荘園の形成—荘園をどう教えるか」『史海』69、2023
年、1-22 頁（査読あり）
79. 苅米一志「魚食と肉食のあいだ—中澤克昭著『肉食の社会史』によせて」『民衆史
研究』106、2024 年、19-29 頁（査読なし）
80. 小林郁「神宮文庫所蔵『来田家旧蔵資料』の中世文書について」『三重県史研究』
39、2024 年、69-84 頁（査読なし）
81. 千枝大志「Yamada Hagaki（山田羽書）： An Investigation of Japan's Oldest
Private Paper Currncy-A Numismatic Study of Japan's Oldest Paper Currency in
the Tokugawa Period」『経済史研究』27、2024 年、19-34 頁（査読あり）

82. 服部光真「元興寺の歴史と伝説」『近畿文化』882、2023 年、1-4 頁（査読なし）
83. 藤本誠「摂関院政期における疾病(障害)表現の基礎的考察—四肢の疾病・盲・皮膚疾患を中心として」『障害史研究』5、2024 年、1-22 頁（査読あり）
84. 守田逸人「平安時代後期の讃岐国善通寺・曼荼羅寺地域における「聖域」空間の成立と巡礼僧」愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター研究紀要『四国遍路と世界の巡礼』9、2024 年、17-24 頁（査読なし）
85. 湯浅治久「中国仏教説話（六朝隋唐期）の疾病（障害）関係史料目録」『障害史研究』6、2024 年、1-14 頁（査読なし）
86. 湯浅治久「古代日本仏教説話の疾病（障害）関係史料目録」『障害史研究』6、2024 年、15-36 頁（査読なし）

学会発表

A01

1. 大貫俊夫「シトー会における歴史叙述と典礼—研究の方針を中心に—」ReMo 研 A01 班研究会(オンライン)、2020 年 12 月 15 日
2. 片山幹生「中世演劇は存在するのか?—「遊び (jeu / play)」としての中世フランス演劇」岸井大輔プレイ企画・日仏演劇協会主催講演会、2020 年 8 月 19 日
3. 片山幹生「西欧演劇のあけぼの—中世典礼劇のドラマトゥルギーと音楽について

て」日仏演劇協会オンライン・レクチャー、2020 年 10 月 30 日

4. Momo Kanazawa, “The Reception of Medieval Art in Japan: the Romanesque as the art of supreme beauty for Soetsu Yanagi,” International Conference “Using the Past: The Middle Ages in the Spotlight,” (オンライン), 2020 年 12 月 8 日
5. 山本潤「「怒り zorn」と「敵意 haz」—中世叙事文学に見る感情の表象するもの」西洋中世学会第 12 回大会シンポジウム「中世における感情」慶應義塾大学（オンライン）、2020 年 10 月 4 日
6. Sayaka Ando, “Das Erbe der karolingischen Initialenornamentik: Zierseiten der illuminierten Handschriften aus Corvey,” Interdisziplinärer Workshop “Die mittelalterliche Bibliothek der Reichsabtei Corvey. Bestände, Forschungsstand, Perspektiven,” Universität Marburg (オンライン)、2021 年 5 月 27 日
7. 大貫俊夫「シトー会におけるアクアマニーレと典礼の危機——『シトー会大創建史』の検討を中心に」ReMo 研公開セミナー2021「アクアマニーレと典礼空間の形成」(オンライン)、2021 年 10 月 30 日
8. 大貫俊夫「13 世紀初頭におけるシトー会による書物編纂と典礼の危機」ReMo 研 A01 班 2021 年度第 1 回月例研究会（オンライン）、2021 年 7 月 2 日
9. 片山幹生「ハーブと貴婦人—ギヨーム・ド・マショー『ハーブの賦』について」日本フランス語フランス文学会 2021 年春季大会、上智大学(オンライン)、2021

年 5 月 23 日。

10. 金沢百枝「フランス中世の写本挿絵とロマネスク彫刻 ヨーロッパの古層からの
遠いこだま」芸術人類学研究所主催シンポジウム第 9 回「土地と力」、2021 年 11
月 27 日
11. Shigeto Kikuchi, “Authorities and Consensus Building in the Carolingian Monastic
World: in a Case of a Conflict,” Authority and Consent in Medieval Religious
Communities, Faculty of Croatian Studies , University of Zagreb, Projekt: “Klöster
im Hochmittelalter” [Sächsische und Heidelberger Akademie der
Wissenschaften]), 2021 年 10 月 28 日。
12. Kenji Hayashi, “Climate and Life in the Hirsau Monasteries,” International
Medieval Congress, Leeds、2021 年 7 月 5 日
13. 林賢治「書物の受容と修道院のアイデンティティー—ゼッカウ修道院（Stift
Seckau）の書物係ベルンハルトの足跡（1140–1184/85）を追って」ReMo 研シン
ポジウム 2021「東西中世における修道院・寺社の書物文化——制作・教育・世界
観の変容」、東京都立大（オンライン）、2021 年 12 月 18 日
14. 林賢治「12 世紀の二重修道院における慣習律テキストの創出—書物係たちの試み
—」ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所第 33 回研究会(オンライン)、2021 年 12
月 26 日。

15. Asami Miura, “Negotiating with the Neighbor: Helfta and Count Mansfeld at the End of the 13th Century,” Cistercian Worlds (オンライン)、2021 年 7 月 2 日
16. 三浦麻美「自由学芸から神学へ—中世盛期女子修道院における回心—」西洋史研究会大会(オンライン)、2021 年 11 月 20 日
17. 山本潤「「ドイツ」国民叙事詩?—オーストリア文学史叙述における『ニーベルンゲンの歌』」戦後オーストリア文学研究会第 2 回コロキウム(オンライン)、2021 年 3 月 21 日
18. 山本潤「中世俗語文芸における「水を灌ぐ」行為—ハルトマン・フォン・アウエ『イーヴェイン』を題材に」ReMo 研公開セミナー2021「アクアマニーレと典礼空間の形成」(オンライン)、2021 年 10 月 30 日
19. 山本潤「ドイツ語圏英雄伝承の教化素材化—ニーベルンゲン伝説およびディートリヒ伝説を題材に」ReMo 研シンポジウム 2021「東西中世における修道院・寺社の書物文化——制作・教育・世界観の変容」、東京都立大学 (オンライン)、2021 年 12 月 19 日
20. 安藤さやか「カロリング朝期彩飾写本に於ける礼拝の視覚化——《コルビー詩編》のイニシアルを中心に——」上智史学会月例会 (オンライン)、2022 年 10 月 22 日
21. Toshio Ohnuki, “The Crisis of the Cistercian Order and Liturgy on the Eve of the

Fourth Lateran Council,” Research Seminar Series 2022, Institute for Medieval

Studies, University of Leeds (オンライン)、2022 年 1 月 25 日

22. 片山幹生「キリスト教演劇の世界—ヨーロッパの宗教劇とオーバーアマガウ受難劇」明治学院大学、2022 年 11 月 14 日

23. Shigeto Kikuchi, “Motivations for travels in the Carolingian age,”

Frühmittelalterliche Mobilität: Interdisziplinäre Zugäng / Early medieval mobility:

Interdisciplinary approaches, Heidelberger Akademie der Wissenschaften, 2022 年

9 月 28 日

24. Shigeto Kikuchi, “Verhandlungen und Kompromisse in der Karolingerzeit,” Der 1.

Workshop des Projekts: Kompromisse im Mittelalter. Erkundungen eines

vernachlässigten Themas (オンライン), 2022 年 11 月 25 日

25. Kenji Hayashi, “Die Tätigkeit des armarius im Doppelkloster (12. Jahrhundert),”

Landesgeschichtliches Kolloquium des Lehrstuhls für Mittelalterliche Geschichte I,

Sommersemester 2022, 2022 年 6 月 14 日

26. Kenji Hayashi, “Die Tätigkeit des armarius im Doppelkloster (12. Jahrhundert),”

International Conference: Rethinking the Medieval Double Monastery in

Interdisciplinary Perspective, 2022 年 10 月 15 日

27. Kenji Hayashi, “Westliche mittelalterliche Elemente in japanischen Animes,” AK

CRITICAL MEDIEVALISM、2022 年 12 月 1 日

28. Asami Miura, From Immobiles to Mobiles: The Concept of Poverty in Vita s.

Elyzabeth by Theodoric of Apolda, Mysticism & Lived Experience Network Annual Conference. Charity and Poverty in the Lives Works of Medieval Mystics(オンライン)、2022 年 6 月 21 日

29. Asami Miura, Building a Center of Pilgrimage: St Elisabethkirche in Marburg and the Indulgence in 13th Century Germany, International Medieval Congress 2022, University of Leeds, 2022 年 7 月 4 日

30. 三浦麻美「名前のない修道女たちー神秘主義と西洋中世史からの取り組みー」東洋大学人間科学研究所「SDGs と人文学」公開セミナー(オンライン)、2022 年 10 月 15 日

31. 山本潤「敷居に立つニーベルンゲンーマックス・メルによる二部作『ニーベルンク族の災厄』」第 5 回戦後オーストリア文学コロキウム(オンライン)、2022 年 11 月 19 日

32. 大貫俊夫「シトー会アイデンティティに関する歴史叙述と「もつれ」」学術変革領域研究 (B) ワークショップ 2022「ラテンキリスト教と日本仏教における「もつれた修道制史」を目指して」リゾーピア熱海、2023 年 1 月 7 日

33. 片山幹生「『典礼劇』とは何かー中世ラテン語歌唱劇の諸相」フォンス・フローリ

ス古楽院秋期講座 2022、LM 文学講座（オンライン）、2023 年 1 月 8 日

34. 片山幹生「宮廷の愛と田園の恋—中世フランスの抒情詩で歌われた愛のかたち」

フォンス・フローリス古楽院秋期講座 2022、LM 文学講座（オンライン）、2023
年 1 月 15 日

35. 片山幹生「中世のフランス語劇の諸相—『アダン劇』からファルスまで」フォン

ス・フローリス古楽院秋期講座 2022、LM 文学講座（オンライン）、2023 年 1 月
23 日

36. 片山幹生「オーバーアマガウ受難劇観劇報告会」MK 企画（オンライン）、2023

年 2 月 7 日

37. 片山幹生「ケベックの先住民演劇の現況と展望」日本ケベック学会定例研究会、

立教大学、2023 年 7 月 15 日

38. 片山幹生「文学的表象としての中世ハーブ：宇宙の調和から宮廷風恋愛の寓意ま

で」フォンス・フローリス古楽院秋期講座 2023、LM 文学講座(オンライン)、
2023 年 9 月 2 日、10 月 14 日

39. 金沢百枝「中世の動物」アーティゾン美術館招待講演、2023 年 9 月 8 日

40. 金沢百枝「西洋工芸と絵画」日本民藝館招待講演、2023 年 11 月 11 日

41. Momo Kanazawa, “The Sculptural Decorations in the Cistercian Cloisters:

Iconoclasm or Classicism?,” Transcending the Tangibility and Intangibility:

Religion and Media in Pre-Modern East and West Eurasia, Tokyo Metropolitan University、2023 年 11 月 25 日

42. Shigeto Kikuchi, “On the use of capitulary texts in the time of Louis the Pious: some remarks on the documents of 818/819,” International Medieval Congress 2023, Session 308: Law and empire: the capitularies of Louis the Pious, 814-840, III、2023 年 7 月 3 日
43. 菊地重仁「趣旨説明」「コメント（中世前期の教皇文書から）」、中世後期の教皇と文書（2023 年度史学会大会西洋史部会部会シンポジウム）、2023 年 11 月 12 日
44. Shigeto Kikuchi, “Expected and unexpected network-building: Translations of relics and their resonance in the Frankish world,” Transcending the Tangibility and Intangibility: Religion and Media in Pre-Modern East and West Eurasia, Tokyo Metropolitan University、2023 年 11 月 25 日
45. Toshio Ohnuki, “Entanglements and Self-Transformation: The Case of Cistercian Pastoral Care,” ‘Entangled’ Monasticism in Medieval and Early Modern Christianity: A Comparison with Medieval Japanese Buddhism, International Medieval Congress 2023, Leeds、2023 年 7 月 6 日
46. Yoshifumi Kitadate, “Obazine and its Local Relationships in the Life of Saint Stephen,” Transcending the Tangibility and Intangibility: Religion and Media in

Pre-Modern East and West Eurasia, Tokyo Metropolitan University、2023 年 11 月

25 日

47. Kenji Hayashi, “Die Übernahme benediktinischer Consuetudines für ein Augustinerchorherrenstift – Die Bestimmungen über das Totenritual im Cod. 1488 aus

48. Salzburg (ÖNB), ”Landesgeschichtliches Kolloquium der Professur für Mittelalterliche

49. Geschichte I im WiSe 2023/24、2023 年 10 月 31 日

50. Asami Miura, “A Medium for a Developing Network? Elisabethkirche and the Teutonic Order, 1235-1309,” Transcending the Tangibility and Intangibility: Religion and Media in Pre-Modern East and West Eurasia, Tokyo Metropolitan University、2023 年 11 月 26 日

51. Asami Miura, “Joan the Girl? The Reception of Joan of Arc in Japan,” Women in Medievalism, 2024 年 2 月 24 日

A02

52. 白川太郎「信仰改革と福音的イタリア：ヴァルド派牧師エミーリオ・コンバのリスルジメント」多元文化学会 2020 年度秋季大会(オンライン)、2020 年 11 月 14

日

53. 白川太郎「後期中世イタリアの神秘体験者崇敬と信仰文化」早稲田大学文学研究科博士論文構想発表会(オンライン)、2020 年 11 月 28 日
54. 荒本文果「イタリア美術への招待ーミケランジェロとティツィアーノ：素描と色彩」福岡日伊協会主催美術セミナー(オンライン)、2021 年 8 月 10 日
55. 荒本文果「イタリア美術への招待ーラファエロの優美：パラティーナ宮殿所蔵《椅子の聖母》」福岡日伊協会主催美術セミナー(オンライン)、2021 年 9 月 9 日
56. 荒本文果「イタリア美術への招待ーレオナルド・ダ・ヴィンチの技法：《最後の晩餐》の修復事業」福岡日伊協会主催美術セミナー(オンライン)、2021 年 10 月 8 日
- 日
57. 荒本文果「ローマ、サント・スピリト病院《シクストゥス 4 世の生涯》壁画の特性と異性と二大托鉢修道会に関わる美術作品との関係について」ReMo 研 A02 班研究会(オンライン)、2021 年 12 月 7 日
58. 荒本文果「巨大な装飾写本：ローマ、サント・スピリト・イン・サッシア病院「教皇シクストゥス 4 世の生涯」の壁画におけるフランシスコ修道会美術の影響について」ReMo 研シンポジウム 2021「東西中世における修道院・寺社の書物文化ー制作・教育・世界観の変容」東京都立大学／オンライン、2021 年 12 月 19 日
59. 赤江雄一「托鉢修道会の司牧革命におけるメディアの総合的研究ー ReMo 研「中

近世における宗教運動とメディア・世界認識・社会統合キックオフミーティング

グ」2020年度ReMo研第1回全体会議(オンライン)、2021年3月16日

60. 赤江雄一「問題ある説教者としての教皇ヨハネス22世—至福直観論争の別側面—」三田史学会2021年度大会(オンライン)、2021年6月26日

61. 梶原洋一「大学学位をめぐる中世ドミニコ会のジレンマ」関西中世史研究会(オンライン)、2021年3月28日

62. 梶原洋一「托鉢修道会のアイデンティティと書物」Remo研シンポジウム2021

「東西中世における修道院・寺社の書物文化——制作・教育・世界観の変容」東京立大学／オンライン、2021年12月18日

63. 原基晶「新著『ダンテ論——『神曲』と個人の出現』をめぐる」ReMo研講演会シリーズ2021第2回(オンライン)、2021年11月29日

64. Taro Shirakawa, “Nemo propheta in patria: Chiara da Montefalco tra venerazione e critiche,” Incontro: Storia della chiesa e delle eresie medievali, Università degli Studi di Firenze、2021年5月6日

65. 白川太郎「後期中世スポレート溪谷における神秘体験者：キアラ・ダ・モンテファルコをめぐる崇敬と対立」第71回日本西洋史学会、武蔵大学(オンライン)、2021年5月16日

66. 白川太郎「『心臓の奇跡』を超えて：預言者キアラ・ダ・モンテファルコと後期中

世イタリアの信仰文化」イタリア史研究会 2021 年度 7 月例会(オンライン)、

2021 年 7 月 4 日

67. 白川太郎「宗派史から国民史へ？ 19 世紀ヴァルド派の歴史叙述とそのイタリア化」第 1 回早稲田大学ナショナリズム・エスニシティ研究所若手研究者研究発表

会、2021 年 9 月 18 日

68. 白川太郎「19 世紀ヴァルド派の「イタリア化」と歴史叙述：牧師エミーリオ・コンバと福音的イタリアの系譜論」歴史論研究会第 9 回関東部会例会(オンライ

ン)、2021 年 9 月 23 日

69. 白川太郎「預言者の到来：14 世紀初頭エミーリア地方のアポストリ・ネットワーク」2021 年度早稲田大学史学会(オンライン)、2021 年 10 月 2 日

70. 白川太郎：「自由主義期ヴァルド派の国民史と信仰改革論：牧師エミーリオ・コンバと福音的イタリアの系譜論」イタリア近現代史研究会例会(オンライン)、2021

年 10 月 23 日

71. 白川太郎「14 世紀初頭コルトーナにおける守護聖人崇敬の形成：聖マルゲリータの『事績録』における都市と托鉢修道会」ReMo 研シンポジウム 2021「東西中世

における修道院・寺社の書物文化——制作・教育・世界観の変容」東京都立大学

／オンライン、2021 年 12 月 19 日

72. 荒本文果「「イギリス美術」の誕生」福岡日英協会主催イギリス美術セミナー(オ

ンライン)、2022 年 3 月 11 日

73. Fumika Araki, “LXI Premio Daria Borghese: Le Cappelle Bufalini e Carafa” ,

Cerimonia di consegna dei premi Daria e Livio Giuseppe Borghese per il 2022,

Palazzo Borghese、 2022 年 5 月 7 日

74. 荒本文果「ダリア・ボルゲーゼ賞受賞までの道のりと今後の課題」慶應義塾大学

理工学部教授・准教授就任講演会、慶應義塾大学、2022 年 6 月 9 日

75. Fumika Araki, “Franciscan and Dominican Art for the Sake of Jubilee Years in the

15th Century Rome,” International Medieval Congress, University of Leeds、2022

年 7 月 4 日

76. 荒本文果「サンタ・マリア・ソプラ・ミネルヴァ聖堂カラファ礼拝堂①」芸術文

化教養講座、大分県立美術館、2022 年 9 月 16 日

77. 荒本文果「サンタ・マリア・ソプラ・ミネルヴァ聖堂カラファ礼拝堂②」芸術文

化教養講座、大分県立美術館、2022 年 10 月 14 日

78. 荒本文果「14、15 世紀イタリアにおける『キリストの生涯の観想』の変容と二大

托鉢修道会の競合意識」慶應義塾大学文学部美学美術史学科コロキウム(オンライ

ン)、2022 年 12 月 1 日

79. 荒本文果「『キリストの生涯の観想』をめぐる二大托鉢修道会のイメージ戦略」美

術史学会東支部例会(オンライン)、2023 年 1 月 28 日

80. 白川太郎「過ぎ去らない中世：近代イタリア王国の知識人による宗教史叙述と「異端者」の再発見」西洋中世学会第14回大会 自由論題報告、立教大学/オンライン、2022年6月18日
81. 赤江雄一「〈托鉢修道会〉理解に向けて——認識の「もじれ」を巡って」、Remo 研熱海ワークショップ「ラテン・キリスト教と日本仏教における「もつれた修道制史」を目
82. 指して」2023年1月7日
83. 荒本文果「マルチバースと美術史学の親和性」石井・石橋基金2023第1回研究会、慶應義塾大学（オンライン）、2023年8月16日
84. 梶原洋一「中世ヨーロッパの托鉢修道会と大学学位ードミニコ会とフランシスコ会」関西比較中世都市研究会、大阪市立大学、2023年9月15日
85. 梶原洋一「学歴社会の誕生？中世における大学とドミニコ会」東京日仏会館、2023年11月6日
86. Taro Shirakawa, “Clare of Montefalco and her pastoral activities,” Workshop: KU Leuven-Waseda University (Waseda University)、2023年6月9日
87. Taro Shirakawa, “Pescatori più utili delle anime». Le missioni francescane nella legenda di Margherita da Cortona,” Conferenza in intermediazione culturale e religiosa (Universita degli studi di Firenze)、2023年9月7日

88. 白川太郎「『最も有益な魂の漁師』？14世紀初頭コルトーナにおけるフランチェスコ会士・預言者・司牧革命」第91回西洋史読書会大会、京都大学、2023年11月3日
89. 原基晶「ミュージカル『チェーザレ 破壊の創造者』事前レクチャー」明治座、明治座、2023年1月29日
90. 原基晶「日本においてチェーザレ・ボルジアについて語ること」(Talking about Cesare Borgia in Japan)、国際ルネサンス学会連盟ヴァーチャル・セミナー第8セッション「ルネサンスとコミック」(Virtual Interdisciplinary Seminar 2021-238th, 8 session, <Renaissance and Comics>)、国際ルネサンス学会連盟(Fédération Internationale des Sociétés et Instituts pour l' Étude de la Renaissance) (オンライン)、2023年2月3日
91. 原基晶「ダンテ『神曲』「地獄篇 第五歌」フランチェスカの愛の歌をめぐって：新たな校訂版テキストをもとに」国際編集文献学研究センター主催第二回シンポジウム、成城大学、2023年10月22日
92. 原基晶「ダンテ研究の今：人生・テキスト・解釈（没後700周年の後で）」日本中世英語英文学会研究助成セミナー、早稲田大学早稲田キャンパス、2023年12月3日
93. 原基晶「ダンテとは誰なのか：『神曲』解釈の第一歩として：「知のフロンティ

ア」シンポジウム：「文化知と学問」東海大学湘南校舎、2023 年 12 月 6 日

94. 荒本文果「永遠の都 ローマ展」福岡日伊協会主催美術セミナー（福岡市美術館）、2024 年 1 月 11 日

A03

95. 石川博樹「経済活動から見た北部エチオピアの 2 王国の比較研究」日本アフリカ学会第 57 回学術大会、オンライン、2020 年 5 月 23、24 日
96. 小俣ラポー日登美「バチカンと日本をつなぐ橋——長崎二十六聖人の列福 日本の殉教者は、どうしてヨーロッパの聖人になったのか？」角川財団・朝日新聞スペシャルバチカンプロジェクト 特別シンポジウム、角川本社ビル 2F ホール（オンライン参加）、2020 年 11 月 7 日
97. 小俣ラポー日登美「『殉教』という焦点：17 世紀の列福制度黎明期における日本殉教者の認定をめぐって」日本西洋史学会第 70 回大会、大阪大学（オンライン）、2020 年 12 月 12 日
98. パトリック・シュウェマー「反キリシタン物語成立考 否定という受容」大航海時代のキリシタン文学：グローバル社会の形成に果たした日本の役割、愛知県立大学日本文化学部、2020 年 10 月 14 日
99. 武田和久「罹患先住民女性の臨死体験と対称性—スペイン領南米ラプラタ地域の

イエズス会布教区を事例として一」早稲田大学ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所(オンライン)、2020 年 12 月 6 日

100. 武田和久「イエズス会班キックオフミーティング」ReMo 研 A03 班 2020 年度第 1 回研究会(オンライン)、2020 年 12 月 20 日

101. 浅野ひとみ「ザビエルのもたらした信仰具」ReMo 研 A03 班月例研究会、2021 年 6 月 24 日

102. 浅野ひとみ「キリシタン信仰具とイスパニア世界」スペインラテンアメリカ美術史研究会シンポジウム「イスパニア世界と日本」2021 年 7 月 31 日

103. Hitomi Asano, “Sobre los restos del Galeón San Diego naufragado en 1600,” Simposio Internacional (Universidad Iberoamericana) Japón y el mundo hispánico a través de la ruta transpacífica: siglos XVI y XVII、2021 年 10 月 5 日

104. 石川博樹「16～18 世紀エチオピア北部におけるテフの重要性の変化について」日本ナイル・エチオピア学会第 30 回学術大会(オンライン)、2021 年 4 月 18 日

105. 石川博樹「エチオピア関連ポルトガル語史料における作物名称 Milho と Grão に関する考察」日本アフリカ学会第 58 回学術大会(オンライン)、2021 年 5 月 23 日

106. 石川博樹「武田和久氏の報告に対するコメント」メトロポリタン史学会第 17 回大会、東京都立大学(オンライン)、2021 年 9 月 25 日

107. 石川博樹「イタリアにおけるエチオピア人種・民族論の展開」日本オリエント学

会第 63 回大会(オンライン)、2021 年 10 月 31 日

108.岡田正彦「仏暦の忌日と『日本仏教』」日本宗教学会・第 80 回学術大会・パネル

「暦の思想史」、2021 年 9 月 7 日

109.岡田正彦「イエズス会エチオピア布教の概要と近年の研究状況」ReMo 研 A03 班

月例研究会、2021 年 6 月 24 日、オンライン、2021 年 11 月 11 日

110.Hitomi Omata Rappo, “Des Indes lointaines aux scènes des collèges : les reflets des

martyrs de la mission japonaise en Europe Aschendorff, 2020, ” Séminaire

d’histoire des missions d’évangélisation、(オンライン)、2021 年 3 月 12 日

111.小俣ラポー日登美「聖なる肌色と身体的他者性の受容—「日本人」は近世ヨーロ

ッパのキリスト教徒にどのように描かれたのか—」日本西洋史学会第 71 回大会小

シンポジウム主催者・発表「信仰の世界地図—長崎 26 聖人信仰の視覚化とその伝

播をめぐって」武蔵大学 (オンライン)、2021 年 5 月 12 日

112.小俣ラポー日登美「殉教をみるということ—近世ヨーロッパにおける日本からの

聖遺物—」メトロポリタン史学会第 17 回大会シンポジウム「前近代世界における

宗教運動と

113.文化交流の諸相」東京都立大学 (オンライン)、2021 年 9 月 25 日

114.小俣ラポー日登美「16–18 世紀西欧における殉教観の形成」国際日本文化研究セ

ンター共同研究会「西洋における日本観の形成と展開」国際日本文化研究センタ

ー共同研究会（オンライン）、2021 年 10 月 23 日

115.小俣ラポー日登美「長崎二十六殉教者の列福（1627）と列聖（1862）」角川文化
振興財団『バチカンに眠る日本の記憶ー文化と交流 450 年・教皇の知り得た日本
ー』上智大学（オンライン）、2021 年 11 月 13 日

116.小俣ラポー日登美「16-17 世紀に日本で起こった殉教ーその言説の西欧における
形成ー」批判的人種・エスニシティ研究会、京都大学人文科学研究所（オンライ
ン）、2021 年 11 月 21 日

117.小俣ラポー日登美「16ー18 世紀西欧における殉教観の形成ー西洋史的文脈の中の
記号としての日本ー」人文科学研究所着任研究発表会、京都大学人文科学研究所
（オンライン）、2021 年 11 月 25 日

118.小俣ラポー日登美「偶像・偶像崇拜・暴君の共演ーイエズス会と日本の宗教ー」
ReMo 研講演会シリーズ 2021「中近世宗教史研究の最前線」（オンライン）、2021
年 12 月 5 日

119.Patrick Schwemmer, “A Transgender Saint in Translation: Marina the Monk in the
Secret Books of the Hidden Christians,”「南蛮人」を超えて：オンライン国際シン
ポジウム、2021 年 2 月 18 日

120.パトリック・シュウェマー「キリシタン聖人伝成立考」キリシタン語学研究会、
2021 年 3 月 3 日

121. Patrick Schwemmer, “The Medieval Japanese Life of St. Alexius of Edessa,” 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies, Whova (オンライン), 2021 年 8 月 27 日
122. パトリック・シュウエマー「キリシタン資料の裏を読む」ReMo 研シンポジウム 2021「東西中世における修道院・寺社の書物文化——制作・教育・世界観の変容」東京都立大学／オンライン、2021 年 12 月 19 日
123. パトリック・シュウエマー「キリシタン聖人伝の日欧の原典」キリシタン文化研究会、上智大学、2021 年 12 月 5 日
124. 武田和久「イエズス会の近代性に関する批判的考察のための総合的歴史学研究—ReMo 研「中近世における宗教運動とメディア・世界認識・社会統合キックオフミーティング」ReMo 研 2020 年度第 1 回全体会議(オンライン)、2021 年 3 月 16 日
125. 武田和久「イエズス会的服従と現地改宗エリート（知識人）の誕生」ReMo 研 A03 班月例研究会(オンライン)、2021 年 5 月 27 日
126. Kazuhisa Takeda, “Las relaciones de parentesco y cacicazgo guaraní en las misiones jesuitas de Paraguay: el producto híbrido de la colonización y evangelización española,” XIX Congreso de AHILA (Asociación de Historiadores Latinoamericanistas Europeos): Consideraciones para la investigación de la

circulación del conocimiento local: las interacciones entre Europa y las Américas en

la temprana modernidad (simposio No. 4)(オンライン)、2021 年 8 月 23 日

([https://www.hsozkult.de/conferencereport/id/tagungsberichte-](https://www.hsozkult.de/conferencereport/id/tagungsberichte-9097?language=en)

[9097?language=en](https://www.hsozkult.de/conferencereport/id/tagungsberichte-9097?language=en))

127. 武田和久「キリスト教的地獄観の流用（アプロプリエーション）とアメリカ先住

民－17-18 世紀スペイン領南米ラプラタ地域のイエズス会布教区を中心に－」メ

トロポリタン史学会第 17 回大会シンポジウム「前近代世界における宗教運動と文

化交流の諸相」東京都立大学（オンライン）、2021 年 9 月 25 日

128. Ryuji Hiraoka, “A Public Cosmology Lecture with a Clockwork Astronomical Model

in 18th Century Japan,” 26th International Conference of History of Science and

Technology (ICHST 2021), Prague(オンライン)、2021 年 7 月 28 日

129. 平岡隆二「イエズス会科学と近世仏教：初中期仏僧の西洋地球説への反応を中心

に」ReMo 研合同研究会「科学、医療、宗教の相互連関—中近世のキリスト教と

仏教を中心に—」（オンライン）、2021 年 9 月 15 日

130. 平岡隆二「開陽丸引き上げ文書と梅文鼎『曆算全書』、洋学史学会オンラインシ

ンポジウム「開陽丸引き揚げ文書について 幕府天文方と開陽丸」（オンライ

ン）、2021 年 11 月 14 日

131. Ryuji Hiraoka, “Buddhist Reaction to the Western Theory of Round Earth in 17th

and 18th Century Japan,” The 6th History of Mathematical Sciences: Portugal and East Asia VI: Measuring Time, Heaven and Earth, Seoul (オンライン)、2021 年 12 月 9 日

132. アンドレス・メナチェ「宣教師たちと「悪魔の法」ーイエズス会士による伴天連追放令の理解ー」アジア・キリスト教・多元性研究会、2021 年 4 月

133. アンドレス・メナチェ「ザビエルから雪窓へ」ReMo 研 A03 班月例研究会(オンライン)、2021 年 9 月 3 日

134. 浅野ひとみ「初期キリシタン時代の信仰具 苦行鞭について」ReMo 研研究会、2022 年 12 月 27 日

135. 岡田正彦「19 世紀の日本における仏教天文学と仏教科学」ReMo 研 A03 班月例研究会、2022 年 1 月 13 日

136. 小俣ラポー日登美「近世から近代の西欧における日本殉教観の変転」国際日本文化研究センター共同研究会「西洋における日本観の形成と展開」(オンライン)、2022 年 2 月 26 日

137. Hitomi Omata Rappo, “De l’idée de la fille parfaite: Les martyrs féminins dans les récits de la mission japonaise (XVIIe-XVIIIe siècles),” Jesuits as promoters of women’s holiness from the 16th to the 19th century, Université Saint-Louis, Bruxelles(オンライン)、2022 年 3 月 4 日

- 138.小俣ラポー日登美「普遍と特殊のはざまを垣間見る―書評『宣教と適応：グローバル・ミッションの近世』によせて―」国立民族学博物館共同研究「近世カトリックの世界宣教と文化順応」(オンライン)、2022年3月20日
- 139.Yoshimi Orii, “Pietro Alagona’s “Compendium Manualis Navarri” published by the Jesuit Mission Press in Early Modern Japan (1597),” Max Planck Institute for Legal History and Legal Theory, “Legal Books and Beyond in the Iberian Worlds: Normative Knowledge Production in the Age of Printing Press” (オンライン), 2022年1月20日
- 140.石川博樹「16～19世紀エチオピア北部における副食」日本ナイル・エチオピア学会第31回学術大会、2022年4月27日
- 141.石川博樹「イタリアの人種論における「ハム人種」」日本アフリカ学会第59回学術大会、2022年5月22日
- 142.石川博樹「エチオピアの栽培植物に関する歴史研究を通して見た学際的共同研究の可能性」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所海外学術フォーラム、2022年6月25日
- 143.石川博樹「アフリカ食文化史研究の試み」アフリカ史研究会第2回研究会、2022年9月3日
- 144.岡田正彦「近世の仏教暦と梵曆社中一僧侶の編暦・造暦・頒暦と近世社会―」日

本宗教学会・第81回学術大会・パネル「近世近代における暦の流通と宗教文化」

(愛知学院大学)、2022年9月10日

145. Masahiko Okada, “Buddhist Science in 19th Century and Modern Buddhism in

Japan,” Interpreting Japan/Interpreting Buddhism, University of Chicago、2022年

10月18日

146. Yoshimi Orie, “The Theological Sources of the Theory of “Dissimulation” During

the Period of Persecution of Christianity in Japan. International Symposium

“Religion, Translation and Transnational Relations: Japan and (Counter-)

Reformation Europe,” Leipzig University, Center for Advanced Studies in the

Humanities and Social Sciences, 2022年9月1-3日

147. Yoshimi Orie, “Mentoring Comments to the Dissertation of Javier Takamura, D.

Phil. (Greene’s Tutorial College, UK): “Luís Fróis's História de Japam: Aims and

methods,” International Workshop: Historical Legacies of Christianity in East Asia.

Co-sponsored by The Institute of Greco-Roman studies at the Institute of

Humanities Seoul National University, South Korea& The Ricci Institute for

Chinese-Western Cultural History, Boston College, USA, November

28—December 4, 2022. Seoul National University, 2022年11月28日-12月4日

148. 小俣ラポー日登美「長崎 26 聖人の列福・列聖とヨーロッパの日本観——200 年に

わたる殉教の表彰——」、角川文化振興財団主催「バチカンと日本 100 年プロジェクト」、上智大学、2022 年 4 月 10 日

149.Hitomi Omata Rappo, “Martyrdom in the Japanese context: from the rejection of a foreign concept to the birth of an identity,” International Conference, Ut Sanguis Martyrum sit semen Christianorum, Palacký University Olomouc (オンライン)、2022 年 6 月 1-2 日

150.Hitomi Omata Rappo, “Witness or be excommunicated? Jesuits converts and Dominicans Friars at the Apostolic Trial of Nagasaki,” Panel organized by Carla Tronu, The rivalry between Jesuits and mendicants about the early modern Japanese missions, the Asian Studies Conference Japan (ASCJ) (オンライン)、2022 年 7 月 2-3 日

151.小俣ラポー日登美「殉教の条件——長崎二十六聖人列福裁判資料の証言から——」日文研共同研究会『西洋における日本観の形成と展開』共同研究会、国際日本文化研究センター、2022 年 10 月 30 日

152.小俣ラポー日登美「ロヨラ・ザビエル・殉教者——初期イエズス会の聖性」キリシタン文化学会大会(オンライン)、2022 年 12 月 3 日

153.小俣ラポー日登美「歴史概念としての殉教を考える」トランスキュルチュレーション研究会(オンライン)、2022 年 12 月 28 日

154. 武田和久「イエズス会サンタ・ロサ布教区（現パラグアイ）洗礼簿（1754-1764）―受洗者の母親の所属カシカスゴに関する試論―」日本ラテンアメリカ学会代 43 回定期大会、同志社大学烏丸キャンパス、2022 年 6 月 5 日
155. 武田和久「家父長主義的暴力と改宗―スペイン領アメリカにおけるイエズス会宣教を中心に―」キリスト教史学会第 73 回大会、南山大学（Zoom オンライン）、2022 年 9 月 12 日
156. 武田和久「イエズス会の組織原理に関する試論―「もつれ」の視点から―」2022 年度 A03 班第 2 回研究会、Zoom ミーティング、2022 年 11 月 19 日
157. 平岡隆二「イエズス会の日本語宇宙論教科書『スヘラの抜書』の発見とその意義」日本科学史学会総会（オンライン）、2022 年 5 月 29 日
158. Ryuji Hiraoka, “The discovery and significance of Sufera no nukigaki (Selection on the sphere), a Japanese translation of Jesuit cosmology textbook,” International Symposium ‘Religion, Translation and Transnational Relations: Japan and (Counter-) Reformation Europe,’ Leipzig University, 2022 年 9 月 2 日
159. 平岡隆二「ワクチン伝来と近世長崎」国立大学附置研究所・センター会議第 3 部会シンポジウム「感染症と近代社会：ポストパンデミックの人文学に向けて」、2022 年 10 月 28 日
160. 平岡隆二「イエズス会日本布教と宇宙論―新出写本『スヘラの抜書』を中心に

ー」科研費学術変革 B「中近世における宗教運動とメディア・世界認識・社会統

合 (ReMo 研)」イエズス会班報告会、2022 年 12 月 20 日

161. アンドレス・メナチェ「17 世紀の排耶書におけるキリシタン・キリスト教像につ

いて一雪窓宗崔を中心にー」京都大学基督教学会第 28 回学術大会、2022 年 7 月

16 日

162. 浅野ひとみ「アルフォンソ賢王『聖母マリア賛歌集』に見る聖地巡礼」日本基督

教学会九州支部大会、2023 年 3 月 24 日

163. 片多雅樹・浅野ひとみ「東京国立博物館所蔵カトリック・メダルの金属組成」日

本文化財科学学会、天理大学、2023 年 10 月 22 日

164. 浅野ひとみ「「さまよえるユダヤ人」伝承：中近世西欧キリスト教会の経済を支え

たメディア」2023 年度イエズス会班第 3 回研究会、2023 年 11 月 7 日

165. 石川博樹「『メネン皇后学校料理書』とエチオピア北部における副食の歴史的変

化」日本ナイル・エチオピア学会第 31 回学術大会、日本ナイル・エチオピア学会

第 31 回学術大会、大阪公立大学/オンライン、2023 年 4 月 16 日

166. 石川博樹「エチオピアにおけるインジェラの調理技法の確立時期」日本アフリカ

学会第 60 回学術大会、幕張国際研修センター、2023 年 5 月 13 日

167. 石川博樹「アフリカ食文化史研究の最前線：エチオピアの酸っぱいパンケーキの

謎に迫る」第 18 回四大学連合文化講演会、東京医科歯科大学、2023 年 8 月 26 日

168. Hiroki Ishikawa, “Birth of Injera in Ethiopia,” International Workshop “Food as a Window to the Past: Africa, Asia and the Pacific,” Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, 2023 年 9 月 25 日
169. 石川博樹「アフリカ食文化史研究が問いかけるもの」西東京三大学共同サステイナビリティ国際社会実装研究センター サステイナビリティ研究オープンセミナー 第 2 回「世界の食と農」、東京農工大学、2023 年 12 月 2 日
170. 岡田正彦「明治改暦と近代仏教」（パネル：明治改暦 150 年に近代日本を問うに
おける発表）日本宗教学第 82 回学術大会、東京外国語大学、2023 年 9 月 9 日
171. 小俣ラポー日登美「18 世紀フランスの演劇の中の日本・韓国・中国——『悲劇・
山伏』（1779）を読み解く」韓国延世大学・成均館大学・東京大学東洋文化研究
所・京都大学人文科学研究所合同シンポジウム『『脱境界』：移住、交渉、共生』、
韓国延世大学、2023 年 1 月 17 日
172. 小俣ラポー日登美「文化翻訳の過去・現在・未来」京都大学白眉センター、2023
年 5 月 26 日。
173. 小俣ラポー日登美「科学の物語、物語の科学——科学の生きる時間軸をさかのぼ
る学際研究」白眉センター後援シンポジウム、2023 年 7 月 22 日
174. Hitomi Omata Rappo, “Stereotypes Revisited,” 京都大学白眉センター, 2023 年 10

月 5 日

175.Hitomi Omata Rappo, “Mining for Gold in the Textual Vein: A Text Mining

Analysis of the Intertextuality between the Legenda Aurea and the Martyrologies of

the Reformativ Era,” Transcending the Tangibility and Intangibility: Religion and

Media in Pre-Modern East and West Eurasia, Tokyo Metropolitan University, 2023

年 11 月 26 日

176.小俣ラポー日登美「歴史のためのテキストマイニング： 中世—宗教改革期の宗教

テキストの相関性をコレスポネンシ分析から検証する」京都大学人文科学研究

所、2023 年 12 月 27 日

177.折井善果「パリ国立図書館蔵『サントスの御作業』の書き入れについて：17 世紀

フランス東洋学との関係」キリスト教史学会第 75 回大会、東北学院大学、2023

年 9 月 16 日

178.パトリック・シュウェマー「キリシタン聖人伝「サンタマリナの御作業」におけ

るローカリゼーションと口頭伝承：ポルトガル語原典に照らして」2023 年度イエ

ズス会班第 2 回研究会、2023 年 10 月 2 日

179.武田和久「もつれとは何か？」2022 年度全体会議「ラテン・キリスト教と日本仏

教における「もつれた修道制史」を目指して」ホテルリゾーピア熱海、2023 年 1

月 7 日

180. 武田和久「「もつれ」から見るイエズス会組織原理 (Formula of the Institute) と
会憲 (Constitutions) – イグナチオ・デ・ロヨラにまつわる歴史叙述と George E.
Ganss の解説を踏まえて」2022 年度 ReMo 研全体会議「ラテン・キリスト教と
日本仏教における「もつれた修道制史」を目指して」ホテルリゾーピア熱海、
2023 年 1 月 7 日
181. Kazuhisa Takeda, “A Reconsideration of Jesuit Modernity from the Entangled
Perspective,” ‘Entangled’ Monasticism in Medieval and Early Modern Christianity:
A Comparison with Medieval Japanese Buddhism, International Medieval Congress
2023, University of Leeds, 2023 年 7 月 6 日
182. Kazuhisa Takeda, “A Reconsideration of Jesuit Modernity from the Entangled
Perspective,” (International Medieval Congress 2023 における研究発表の概要報
告) 2023 年度イエズス会班第 1 回研究会、2023 年 8 月 1 日
183. Kazuhisa Takeda, “The Constitutions of the Society of Jesus: A Collective Entity of
the Multifaceted Monastic Identity,” Transcending the Tangibility and
Intangibility: Religion and Media in Pre-Modern East and West Eurasia, Tokyo
Metropolitan University, 2023 年 11 月 25 日
184. 平岡隆二「禁教・潜伏・発見：キリシタンの 3 世紀 (1614-c.1920)」人文研アカ
デミー2023 シンポジウム「もう一つの〈キリシタン信徒発見〉：1879 年茨木・千

提寺とフランス人宣教師」、京都、2023 年 7 月 17 日

185. Ryuji Hiraoka, “A Jesuit Cosmology Textbook in Japanese Translation: the Discovery and Significance of Sufera no nukigaki スヘラの抜書(Selection on the Sphere),” The 16th International Conference on the History of Science in East Asia (16th ICHSEA), Frankfurt am Main, 2023 年 8 月 22 日

186. Ryuji Hiraoka, “Exploring Cosmology with a Clockwork Astronomical Model: A Public Scientific Lecture in 18th Century Japan,” EHESS seminar “Sciences et savoirs de l'Asie orientale dans la mondialisation (XVIe-XXIe siècle),” Paris, 2023 年 11 月 8 日

187. Ryuji Hiraoka, “Cosmology in Translation: A Case of Jesuit Textbook during Japan’s “Christian Century,” International Workshop “Latin as a Cultural Interface between Europe and East Asia in Catholic Missions (16th-18th Centuries),” organised by Université d'Orléans and IRFA, Paris, 2023 年 11 月 9 日

188. 平岡隆二「キリシタン布教と科学伝来：新発見の宇宙論教科書『スヘラの抜書』を中心に」洋学史学会若手部会例会、大阪、2023 年 12 月 17 日

189. アンドレス・メナチェ「「歴史」の変遷と現代アートについて」東北芸術工科大学、2023 年 5 月 18 日

190. アンドレス・メナチェ「日本の初期宣教に見られる補陀落渡海と「悪魔の殉教

者」との関係について」新キリシタン学研究会第3回例会、早稲田大学、2023年

5月21日

191. Andrés Menache, “From ‘barbarians’ to ‘wicked’ : the perception of Christian

Religion in Early Modern Japan,” Masaryk University, Department of Japanese

Studies, 2023年6月11日

192. Andrés Menache, “Between the boat and the cross: a comparative study of the

western account of the Fudaraku Sailing and the Japanese depiction of Christian

martyrdom in early modern Japan,” 17th International Conference of the European

Association of Japanese Studies, Ghent University, 2023年8月18日

193. 石川博樹「19世紀半ばのエチオピアにおける「インジェラ」」東京外国語大学ア

ジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「アフリカ食文化研究：

変貌しつつあるその実像に迫る」2023年度第3回研究会、京都大学稲盛財団記念

館、2024年3月24日

194. 小俣ラポー日登美「事実のつくりかた：イメージと言説の再生産の紡ぐ歴史」サ

ントリー文化財団フォーラム、2024年2月20日

195. Hitomi Omata Rappo, “Distant Reading of Martyrologies in the Reformativ Era:

Text Mining Analysis for Assessing Stereotypes. Europa ed Estremo Oriente:

relazioni, incontri e conflitti nella prima età moderna, Università di Firenze, 2024年

3月7日

196.小俣ラポー日登美「近世ヨーロッパの殉教伝のテキスト・マイニングから見る日

本：イメージと言説の再生産が紡ぐ歴史」日文研シンポジウム 日本宗教・思想文

化の接合域と多面性を考える：「他者」とどのように向き合ったのか、2024年3

月23日

197.折井善果「近世初期日本における告解（ゆるしの秘跡）とキリシタン版『さるば

とるむんぢ』」2023年度イエズス会班第4回研究会(オンライン)、2024年1月30

日

B01

198.Andrea Castiglioni, Kawasaki Tsuyoshi, Defining Shugendo: Critical Studies on

Japanese Mountain Religion, IMAP Lecture, Kyushu University, 2020年11月8日

199.藤本誠「『日本霊異記』の成立と東アジアの仏教」仏教文学会2020年12月例会

シンポジウム「東アジアの中の『日本霊異記』、2020年12月20日

200.湯浅治久「戦国期の諏訪社造営と「先例」管理—地域権力と地下文書の接点—」

第11回中世地下文書研究会、2020年12月20日

201.苅米一志「『太平記』にみる岡山の中世武士団」岡山市立御津公民館、2021年12

月4日

- 202.川崎剛志「西大寺縁起絵巻断簡からみる信仰の一齣」第1回正宗文庫文庫セミナー(オンライン)、2021年9月20日
- 203.川崎剛志「霊山の縁起から修験の縁起へ」日本山岳修験学会特別例(オンライン)、2021年9月26日
- 204.川崎剛志「霊山・神倉山と蓬莱山の縁起伝承景観」、熊野歴史文化シンポジウム「熊野新宮の聖地文化―山・川・海の景観を愛でる―」丹鶴ホール(和歌山県新宮市)、2021年11月7日
- 205.川崎剛志「聖地と日本仏教史の再創出―『金剛山縁起』の偽撰と受容―」Remo 研シンポジウム 2021「東西中世における修道院・寺社の書物文化―制作・教育・世界観の変容」東京都立大学／オンライン、2021年12月18日
- 206.鎌倉佐保「『多摩市市制施行50周年記念誌』」多摩市、2021年12月
- 207.鎌倉佐保「『開発領主』と荘園の形成―荘園をどう教えるか―」学芸大学史学会大会、2021年11月21日
- 208.小林郁「中世・近世の伊勢参宮～御師制度廃止150年を迎えて～」四日市市熟年大学〈専攻課程〉、四日市市三浜文化会館〈カルチャー三浜〉視聴覚室、2021年12月
- 209.小林郁「中世伊勢御師研究素材としての檀那帳について」日本道教学会第72回大会(オンライン)、2021年11月

210. 小林郁「伊勢御師とは何だったのか～御師制度廃止 150 年を迎えて～」みえミュージアムセミナー2021、三重県生涯学習センター、2021 年 10 月
211. 千枝大志「16～17 世紀伊勢神宮地域をめぐる金融と信用の実像」貨幣史研究会(オンライン)、2021 年 6 月 6 日
212. 千枝大志「最近の研究の方向性めぐって—本科研の関連研究を中心に—」ReMo 研 B01 班報告会(オンライン)、2021 年 11 月 19 日
213. 守田逸人「中世善通寺関係文書の伝来について」中世史研究会例会報告、2021 年 7 月 30 日
214. Tsuyoshi Kawasaki, “Image-Building on Kumano Pilgrimage in Medieval Japan: Origin, History, and Geography,” International Medieval Congress 2022, University of Leeds, 2022 年 7 月 4 日
215. 川崎剛志「鎌倉中期の金剛山大規模修造と『金剛山縁起』——ノ橋文庫蔵『金剛山勧進帳』(弘長二年、真祐自筆署名)をめぐる——」仏教文学会大会シンポジウム「葛城二十八宿の仏教文学史的環境」、金城学院大学、2022 年 9 月 4 日
216. 川崎剛志「岡山の知識人との交遊と収書—正宗文庫塚本吉彦旧蔵書めぐって—」第 2 回正宗文庫セミナー(国文学研究資料館主催)基調講演、就実大学、2022 年 9 月 10 日
217. 小林郁「オンライン展示「伊勢参宮の先導者たち—隆盛・廃止・その後—」」神道

博物館教養講座オンデマンド配信「伊勢御師を語る－御師制度廃止 150 年を迎えて－」、皇學館大学公式ホームページ生涯学習・公開講座専用フォーム、2022 年 2 月

218. 小林郁「伊勢御師の形成期における道者について」、地方史研究協議会準備報告会（オンライン）、2022 年 8 月

219. 小林郁「中世後期における伊勢御師の様相－道者売券を中心に－」2022 年度地方史研究協議会第 72 回（三重）大会「“出入り”の地域史－求心・醸成・発信からみる三重－」、2022 年 10 月

220. 小林郁「御師の形成と発展」伊勢郷土会、2022 年 10 月

221. 小林郁「伊勢御師にみる“おもてなし”の歴史」株式会社伊勢福「おかげ講習」、2022 年 11 月

222. 小林郁「中近世文書を読む～中世道者売券について～」皇學館大学研究開発推進センター史料編纂所古文書講座、2022 年 12 月

223. 鎌倉佐保「平安・鎌倉時代の武蔵武士～多摩郡西部を本拠にした武士団 武蔵七党、横山党について～」八王子市生涯学習センター南大沢分館 2022 年度市民自由講座、2022 年 5 月 7 日

224. 鎌倉佐保「北条義時の生きた時代－「鎌倉殿の 13 人」の時代背景を探る－」東京都立大学オープンユニバーシティ、2022 年 6 月 7 日

225.佐々木守俊「仏像の内部に納入された版画 人とほとけの世界を結ぶ仏教版画の

世界」清泉ラファエラ・アカデミア一日講座、2022 年 6 月 10 日

226.千枝大志「伊勢参詣曼荼羅に関する一考察」中世史研究会 2 月例会(オンライ

ン)、2022 年 2 月 25 日

227.千枝大志「伊勢御師の名古屋での空間認識を体験！檀家帳と古地図で解き明かす

江戸期の檀家探索ツアー【高岳・主税町・檀木町編】～伊勢信仰を広めた伊勢御

師必携の歴史資料を使った史料活用講座～」大ナゴヤツアーズ、名古屋市、2022

年 5 月 22 日

228.Daishi Chieda, “Yamada Hagaki (山田羽書): An Investigation of Japan’s Oldest

Private Paper Currency a numismatic study of Japan’s oldest private paper currency

in the Tokugawa period” (準備報告),「貨幣再考」研究会@飛騨高山研究集会、飛

騨地域地場産業振興センター, 2022 年 8 月 11 日

229.千枝大志「近世伊勢山田における紙幣の存在形態と流通様相―山田羽書の発行構

造と諸藩札の関係をめぐって―」第 72 回 2022 年度地方史研究協議会（三重）大

会共通論題報告プレ報告会、ZOOM、2022 年 9 月 4 日

230.Daishi Chieda, “Yamada Hagaki (山田羽書) : An Investigation of Japan’s Oldest

Private Paper Currency a numismatic study of Japan’s oldest private paper currency

in the Tokugawa period,” INC（国際貨幣学会議）2022 ワルシャワ大会,

University of Warsaw, 2022 年 9 月 16 日

231. 千枝大志「近世伊勢山田における紙幣の存在形態と流通様相―山田羽書の発行構造と諸藩札の関係をめぐって―」第 72 回 2022 年度地方史研究協議会（三重）大会共通論題報告、三重県総合文化センター内男女共同参画センター「フレンテみえ」多目的ホール、2022 年 10 月 16 日
232. 千枝大志「実学としての宗教史学の追求の可能性―歴史まちづくりと SDGs 的史料保存―」同朋大学人生を考える講座、同朋大学知文会館、2022 年 11 月 1 日
233. 千枝大志「東海三県の参詣曼荼羅をめぐる諸問題：伊勢と熱田の参詣曼荼羅を中心に」第 1 回中近世伊勢社会経済史研究会 伊勢参詣曼荼羅からみた伊勢神宮地域の中近世都市社会像再考、伊勢河崎商人館角吾座ホール、2022 年 11 月 13 日
234. 千枝大志「江戸・明治から変わらない街並み、区画、一部土地所有者まで！？史料で読み解く土地深堀歴史学ツアー【那古野編】～江戸や明治の時代の面影が残っているのは、替地町という忘れられた旧町名に理由があった！？～」大ナゴヤツアーズ、名古屋市、2022 年 12 月 11 日
235. 千枝大志「羽書と呼ばれた近世紙幣と伊勢・松坂」松阪歴史文化舎第 6 回松阪学入門講座、三重県(松阪市立図書館 2 階講座室)、2022 年 12 月 25 日
236. 藤本誠「古代日本の地方寺院の性格と機能―地方豪族と住僧の検討を中心として―」ReMo 研・日本中世寺社班研究会主催研究会（オンライン）、2022 年 7 月 29

日

237.藤本誠「古代日本の「孝子」受容と地域社会の法会—『東大寺諷誦文稿』を中心として—」古代文学会 2022 年度夏期セミナー（オンライン）、2022 年 8 月 20 日

238.守田逸人「コメント—讃岐の中世文書について—」第 12 回中世地下文書研究会、
2022 年 1 月 29 日

239.守田逸人「中世善通寺領の史実と伝承をあるく」日本地理学会大会公開講演会、
2022 年

240.湯浅治久「中世武士団の統治と宗教」「中近世における宗教運動とメディア・世界
認識・社会統合：歴史研究」日本中世寺社班研究報告(オンライン)、2022 年 6 月
26 日

241.湯浅治久「日本中世の「旅と移動」研究の新段階—人流・物流・宿の実像—」
2022 年度専修大学高校教員研修プログラム・日本史、2022 年 8 月 2 日

242.湯浅治久「原泉地区の中世の村々と生業—孕石氏の来歴と中世の原泉地区（その
2）—」原の会、2022 年 8 月 20 日

243.湯浅治久「地下文書の生成・変容と権力秩序—近世地方文書への道程—」中世地
下文書研究会シンポジウム、2022 年 10 月 22 日

244.湯浅治久「都鄙間における「公用関」と在地領主の関所支配について」『論集 東
海道中世史研究』研究会(オンライン)、2022 年 11 月 23 日

- 245.鎌倉佐保：八王子市生涯学習センター講座「平安・鎌倉時代の武蔵武士：多摩郡西部を本拠にした武士団 武蔵七党、横山党について」八王子市生涯学習センタークリエイトホール、2023 年 7 月 2 日
- 246.Hitoshi Karikome, “Entanglements in the Buddhism of Medieval Japan: Sects, Doctrines, and Pastoral Care,” ‘Entangled’ Monasticism in Medieval and Early Modern Christianity: A Comparison with Medieval Japanese Buddhism, International Medieval Congress 2023, Leeds, 2023 年 7 月 6 日
- 247.苅米一志、徳永誓子『憑霊信仰と日本中世社会』（法藏館、2022 年）合評会報告、岡山地方史研究会 2023 年 12 月例会、2023 年 12 月 17 日
- 248.小林郁「神宮御師資料の現在地を紐解く 現状と課題～橋村家関係資料を例に～」御師文化再生フォーラム、2023 年 3 月
- 249.小林郁「伊勢御師の家政資料～橋村家を例に～」伊勢市郷土会、2023 年 10 月 20 日。
- 250.小林郁「ギャラリートーク「ある伊勢御師の軌跡―新発見・橋村家伝来資料から―」」皇學館大学佐川記念神道博物館、2023 年 10 月 21 日
- 251.小林郁「家伝資料にみる伊勢御師～橋村一族の歴史と実態～」公益財団法人伊勢文化会議所（五十鈴塾）、2023 年 10 月 23 日
- 252.小林郁「初公開！伊勢御師の家伝資料～橋村一族の軌跡～」三重県生涯学習セン

ター（みえミュージアムセミナー2023）、2023年11月3日

253. Kaoru Kobayashi, "Ise Shrine and Onshi in Japanese Medieval period,"

Transcending the Tangibility and Intangibility : Religion and Media in Pre-Modern

East and West Eurasia, Tokyo Metropolitan University, 2023年11月25日

254. 千枝大志「実例で学ぶ！歴史資料を読み解き、楽しむ方法」TSUTAYA

BOOKSTORE 名鉄百貨店、2023年2月5日

255. 千枝大志「伊勢参詣曼荼羅をよみとくー画像解釈と縁起・伝承ー」令和4年度歴

史講座「くらしと伝承」第3回、三重県（斎宮歴史博物館）、2023年2月18日

256. Daishi Chieda, "Re-examination of the relationship between & Yamada Hagaki (山

田羽書)," Japan's oldest local currency- like private paper currency, and domain

paper currency, 第2回ブルガリア貨幣学会議準備会, 同朋大学仏教文化研究所,

2023年6月3日

257. Daishi Chieda, "Re-examination of the relationship between & Yamada Hagaki (山

田羽書)," Japan's oldest local currency- like private paper currency, and domain

paper currency, 10th Joint Meeting of ECFN and Nomisma.org & 2nd BulgNR

TOGETHER, Sofia University, BULGARIA, 2023年6月20日

258. 千枝大志「伊勢神宮地域をめぐる金融・信用と信仰経済」中世史研究会50周年記

念大会「日本中世の東西と都鄙」②「都鄙の連関と相互認識」、名古屋大学、

2023 年 9 月 26 日

259. Daishi Chieda, “Yamada Hagaki (山田羽書): An Investigation of Japan’s Oldest Private Paper Currency a numismatic study of Japan’s oldest private paper currency in the Tokugawa period, 第 112 回経済史研究会 共通テーマ「近世日本の貨幣」, 大阪経済大学経済史研究所, 2023 年 10 月 21 日

260. Makoto Fujimoto, “Temples and Dō in Ancient Japan: The Roles of Powerful Local Families and Village Elites in Local Buddhist Facilities,” Princeton University, Center for Culture, Society and Religion, Workshop “Thinking Through Minshū Bukkyō: Popular Buddhism and the Study of Premodern Japan” (Princeton University), 2023 年 9 月 22 日

261. 藤本誠「古代地方寺院をめぐる諸問題」東国古代遺跡研究会第 13 回研究大会「東国の地域交流と平安仏教—南東北と北関東の里の寺、山の寺—」、2023 年 11 月 12 日

262. Makoto Fujimoto, “Statues and Sermons in the Local Community: Media Used by Buddhist Priests from the Capital in Ancient Japan,” Transcending the Tangibility and Intangibility: Religion and Media in Pre-Modern East and West Eurasia, Tokyo Metropolitan University, 2023 年 11 月 25 日

263. 守田逸人「香川大学図書館「神原文庫」と初代学長神原甚造の人物像」神原文庫

資料展関連講演、2023 年 7 月 11 日

264. 守田逸人「善通寺と善通寺地域一帯をとりまく弘法大師の足跡」愛媛大学文系研究センター合同シンポジウム、2023 年 9 月 24 日

265. 守田逸人「讃岐地域の荘園形成と弘法大師「聖跡」の広がり」香川県高校歴史部研究会講演会、2023 年 10 月 26 日

266. 守田逸人「一次史料出現期の札所寺院について」愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター公開講演会・シンポジウム「弘法大師生誕 1250 年代・中世の四国遍路」2023 年 10 月 28 日

267. 湯浅治久「戦国仏教と中世社会―寺社の連合と災害対応から考える―」中近世宗教史研究会 10 月例会、2023 年 10 月 20 日

268. 川崎剛志「院政期における大峯修行の盛行と儀礼化」Premodern Japanese Religion Workshop Seminar「中世日本における言葉、イメージ、儀礼の響き：日本宗教研究の方法論を考える」（オンライン）、2024 年 2 月 17 日

269. 小林郁「中世における神宮御師形成の視点から」神道宗教学會第 4 回研究例会「伊勢神宮古代・中世移行期論の射程」、2024 年 2 月 22 日

270. 小林郁「ギャラリートーク「ある伊勢御師の軌跡―新発見・橋村家伝来資料から―」（オンライン）（神道博物館教養講座オンデマンド配信「伊勢御師の家伝資料を紐解く～橋村一族のすべて～」）、皇學館大学公式ホームページ生涯学習・公開

講座専用フォーム、2024 年 2 月 26 日～3 月 10 日配信

271.千枝大志「中近世伊予国における伊勢御師の活動―橋村家関係史料の紹介を中心
に―」第 2 回中近世伊勢社会経済史研究会、松山大学樋又キャンパス H3C 教室、
2024 年 2 月 10 日

272.千枝大志「尾張藩札と山田羽書 ―貨幣金融史からみた伊勢と尾張の意外な関係
―」名古屋の旧町名の復活を目指す有志の会〈第 138 回例会〉、札幌かに本家栄中
央店、2024 年 2 月 17 日

273.千枝大志「絵図と古文書で読み解く名古屋の史的一断面 ～ヨソモノ宗教者からみ
た城下町の姿～」名古屋の旧町名の復活を目指す有志の会〈第 131 回例会〉、料
亭、蔦茂、2024 年 7 月 22 日

274.藤本誠「古代地方寺院の特質」早稲田古代史研究会例会報告、2024 年 1 月 20 日

図書

A01

1. 石田勇治編、安藤さやか、大貫俊夫、山本潤『ドイツ文化事典』丸善出版、2020
年、708 頁
2. 三浦麻美『「聖女」の誕生―テューリングゲンの聖エリーザベトの列聖と崇敬―』八
坂書房、2020 年、444 頁

3. 西山雄二編、大貫俊夫『いま言葉で息をするために：ウイルス時代の人文知』勁草書房、2021 年、336 頁
4. ウィンストン・ブラック著、大貫俊夫監訳、白川太郎訳『中世ヨーロッパ ファクトとフィクション』、平凡社、2021 年、425 頁
5. Shigeto Kikuchi, Herrschaft, Delegation und Kommunikation in der Karolingerzeit. Untersuchungen zu den Missi dominici (751-888), Harrassowitz, 2021, 1048 pp.
6. 甚野尚志編、林賢治・白川太郎『疫病・終末・再生：中近世キリスト教世界に学ぶ』知泉書館、2021 年、364 頁
7. 高山博・亀長洋子編、大貫俊夫、菊地重仁、梶原洋一『中世ヨーロッパの政治的結合体：統治の諸相と比較』東京大学出版会、2022 年、648 頁
8. 小森謙一郎他編、片山幹生『人文学のレッスン：文学・芸術・歴史』水声社、2022 年、319 頁
9. スザンナ・イヴァニッチ著、岩井木綿子訳、金沢百枝監修『CATHOLICA カトリック表象大全』（東京書籍）、2022 年、256 頁
10. 大黒俊二・林佳世子責任編集、大月康弘・清水和裕編集協力、菊地重仁『西アジアとヨーロッパの形成：八～一〇世紀』（岩波講座世界歴史 8）岩波書店、2022 年、314 頁
11. 松本悠子・三浦麻美編、北舘佳史『歴史の中の個と共同体』（中央大学出版部）、

2022 年、528 頁

12. 前田佳一編、山本潤『モルブス・アウストリアクス』法政大学出版局、2023 年、436 頁

13. Toshio Ohnuki, Gert Melville, Yuichi Akae, and Kazuhisa Takeda (eds.), Shigeto Kikuchi (author), *Pastoral Care and Monasticism in Latin Christianity and Japanese Buddhism (ca. 800-1650)*, Münster: LIT Verlag, 2024, 280 pp.

14. 大貫俊夫・赤江雄一・武田和久・苅米一志編、林賢治・山本潤・荒本文果・白川太郎・川崎剛志『修道制と中世書物』八坂書房、2024 年、416 頁

15. 金沢百枝『キリスト教美術をたのしむ：旧約聖書篇』新潮社、2024 年、296 頁

16. 日本ケベック学会編、片山幹生『ケベックを知るための 55 章』（第 2 版）明石書店、2024 年、384 頁

A02

17. 駒田亜紀子『文字と絵の小宇宙 国立西洋美術館 内藤コレクション 写本リーフ作品選』、2021 年、94 頁

18. 原基晶『ダンテ論—『神曲』と「個人」の出現』青土社、2021 年、353 頁

19. 赤江雄一・岩波敦子編『中世ヨーロッパの伝統一テキストの生成と運動—』慶應義塾大学出版会、2022 年、246 頁

20. 大沼由布・徳永聡子編、赤江雄一『旅するナラティブ——西洋中世をめぐる移動の諸相』知泉書館、2022 年、302 頁
21. ジョン・H. アーノルド著、図師宣忠・赤江雄一訳『中世史とは何か』岩波書店、2022 年、270 頁
22. Yoichi Kajiwara, Du frère au maître. Les dominicains de France face au système universitaire des grades au Moyen Âge, Paris, Cerf, 2022, 548 pp.
23. キリスト教文化事典編集委員会編、駒田亜紀子、折井善果『キリスト教文化事典』丸善出版、2022 年、790 頁
24. 関西学院大学キリスト教と文化研究センター編、赤江雄一『ことばの力——キリスト教史・神学・スピリチュアリティ』キリスト新聞社、2023 年、166 頁
25. 公益信託松尾金藏記念奨学基金編、白川太郎『明日へ翔ぶー人文社会学の新視点ー6』風間書房、2023 年、510 頁
26. 徳永聡子編、赤江雄一『神・自然・人間の時間：古代・中近世のときを見つめて』慶應義塾大学出版会、2024 年、240 頁
27. 金山弘昌編、荒本文果『迷宮のアルストピア：新しきイマジナリアを求めて』ありな書房、2024 年、432 頁
28. 駒田亜紀子『文字と絵の小宇宙 国立西洋美術館 内藤コレクション写本リーフ作品選（改訂版）』国立西洋美術館、2024 年、94 頁

A03

29. Hitomi Omata Rappo, *Des Indes lointaines aux scènes des collèges: Les reflets des martyrs de la mission japonaise en Europa (XVIe –XVIIIe siècle)*, Münster: Aschendorff, 2020, 598 pp.
30. Fernando Quiles et al. (eds.), , *A la luz de Roma: Santos y santidad en el barroco iberoamericano. Volumen III. Tierra de santidad*, Roma: Roma Tre Press, 2020, 365 pp.
31. Yoshimi Orii, y María Jesús Zamora Calvo (eds.), *Cruces y Áncoras : La Influencia de Japón y España en un Siglo de Oro Global*, Madrid : Abada Editores, 2020, 302 pp.
32. エリザ・タシロ・白井純編、パトリック・シュウエマー『リオ・デ・ジャネイロ 国立図書館蔵 日葡辞書』八木書店、2020 年、868 頁
33. 高祖敏明・五野井隆史編、パトリック・シュウエマー『潜伏キリシタン図譜 Hidden Kirishitan of Japan Illustrated』鎌倉春秋、2020 年、808 頁
34. Stefano U. Baldassarri (ed.), Kazuhisa Takeda, *Guerre di religione e propaganda 1350-1650*, Roma: Tab Edizioni, 2020, 223 pp.
35. 日本思想史事典編集委員会、平岡隆二『日本思想史事典』丸善出版、2020 年、

718 頁

36. Oba Haruka et al. (eds.), , Japan on the Jesuit Stage: Transmissions, Receptions, and Regional Contexts, Leiden: Brill, 2021, 342 pp.
37. H. Madar (ed.), Yoshimi Orii, Prints as Agents of Global Exchange, 1500-1800, Amsterdam: Amsterdam University Press, 2021, 322 pp.
38. Laura Dierksmeier, Fabian Fechner and Kazuhisa Takeda (eds.), Indigenous Knowledge as a Resource : Transmission, Reception, and Interaction of Global and Local Knowledge between Europa and the Americas, 1492-1800, Tübingen: Tübingen University Press, 2021, 314 pp. (<https://publikationen.uni-tuebingen.de/xmlui/handle/10900/117746>).
39. 洋学史学会監修・青木歳幸他編、平岡隆二『洋学史研究事典』思文閣出版、2021年、516 頁
40. Cindy Yik-yi Chu et al. (eds.), Hitomi Omata Rappo, The Palgrave Handbook of the Catholic Church in East Asia, Vol. 3: Japan, London: Palgrave MacMillan, 2022
41. 吉澤誠一郎・石川博樹編『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い 158』、ミネルヴァ書、2022 年、378 頁
42. 岸本恵実・白井純編、折井善果・平岡隆二『キリシタン語学入門』教文館、2022年、168 頁

43. Bill M. Mak and Eric Huntington (eds.), Ryuji Hiraoka, *Overlapping Cosmologies in Asia: Transcultural and Interdisciplinary Approaches*, Brill, 2022, 297 pp.
44. 平井松午・島津美子編、平岡隆二『〈稿本・大名家本〉伊能図研究図録』創元社、2022 年、344 頁
45. 岩城卓二他編、平岡隆二『論点・日本史学』ミネルヴァ書房、2022 年、388 頁
46. 浅野ひとみ共編著『覚醒する禁教期キリシタン文化』長崎純心大学、2023 年、188 頁
47. 小俣ラポー日登美『殉教の日本——近世ヨーロッパにおける宣教のレトリック』名古屋大学出版会、2023 年、600 頁
48. 木畑洋一・安村直己編、小俣ラポー日登美『岩波講座 世界歴史 第 15 巻 主権国家と革命 15-18 世紀』岩波書店、2023 年、304 頁
49. 浅香武和編著、浅野ひとみ『カンティエーガス・デ・サンタ・マリアへの誘い：聖母マリア頌歌集』論創社、2023 年、288 頁
50. Paulette Choné et al. (dir.), Hitomi Omata Rappo, *L'image pensive: Devises et emblèmes du XVIe au XXIe siècle*, Paris: L'Harmattan, 2023, 444 pp.
51. 小俣ラポー日登美, Elisa Frei et al.(ed.), Hitomi Omata Rappo, *Profiling Saints: Images of Modern Sanctity in a Global World*, Vandenhoeck & Ruprecht, 2023, 348 pp.

52. 小俣ラポー日登美, Nicolas Brucker (dir), Hitomi Omata Rappo, Le théâtre de collège au XVIII ème siècle, Editions de l'Université de Bruxelles, 2023, 132 pp.
53. 川村信三他編、小俣ラポー日登美『キリシタン 1622：殉教・列聖・布教聖省 400 年目の省察』教文館、2024 年、336 頁

B01

54. 坂出市史編さん所、上野進『坂出市史 通史 上 中世篇』坂出市、2020 年、283 頁
55. 伊藤聡・吉田一彦編、川崎剛志『日本宗教史 3 宗教の融合と分離・衝突』吉川弘文館、2020 年、308 頁
56. Andrea Castiglioni, Fabio Rambelli, and Carina Roth (eds.), Tsuyoshi Kawasaki, Defining Shugendo: Critical Studies on Japanese Mountain Religion, Bloomsbury Academic, 2020, 287 pp.
57. 板倉聖哲・高岸輝編、佐々木守俊『日本美術のつくられ方—佐藤康宏先生の退職によせて』羽鳥書店、2020 年、800 頁
58. 元興寺・元興寺文化財研究所編、服部光真『図説 元興寺の歴史と文化財』吉川弘文館、2020 年、196 頁
59. 愛媛県歴史文化博物館編、服部光真『明石寺と四国遍路』六一書房、2021 年、

223 頁

60. 元興寺・元興寺文化財研究所編、服部光真『日本仏教はじまりの寺 元興寺』吉川弘文館、2020 年、236 頁
61. 湯浅治久『中世の富と権力：寄進する人びと』吉川弘文館、2020 年、214 頁
62. 田中大喜編、湯浅治久『中世武家領主の世界』勉誠出版、2020 年、352 頁
63. 香川県教育委員会編、上野進『香川の文化財』香川県教育委員会、2021 年
64. 就実大学吉備地方文化研究所編、苅米一志『吉備地方中世古文書集成（三） 備前本蓮寺文書』、2021 年
65. 川崎剛志『修験の縁起の研究―正当な起源と歴史の創出と受容』和泉書院、2021 年、224 頁
66. 小林郁(共著)『図録 伊勢参宮の先導者たち―隆盛・廃止・その後―』皇學館大学佐川記念神道博物館、2021 年、68 頁
67. 日高薫／ベッティーナ・ツォルン責任編集、人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館編、佐々木守俊『異文化を伝えた人々 II ハイน์リッヒ・フォン・シーボルトの蒐集資料』臨川書店、2021 年、322 頁
68. 加藤慶一郎編、千枝大志『日本近世社会の展開と民間紙幣』塙書房、2021 年、288 頁
69. 佐々木虔一・川尻秋生・黒済和彦編、藤本誠『馬と古代社会』八木書店、2021

年、568 頁

70. 秋山哲雄・田中大喜・野口華世編、守田逸人『増補改訂新版 日本中世史入門』勉強出版、2021 年、590 頁
71. 菊地大樹・近藤祐介編、湯浅治久『寺社と社会の接点』高志書院、2021 年、249 頁
72. 香川大学教育学部監修、守田逸人・平篤志・寺尾徹・上野進編『大学的香川ガイド』昭和堂、2022 年、432 頁
73. 橋本道範編、苅米一志『自然・生業・自然観—琵琶湖の地域環境史—』小さ子社、2022 年、456 頁
74. Fabio Rambelli and Or Porath (eds.), Tsuyoshi Kawasaki, *Rituals of Initiation and Consecration in Premodern Japan: Power and Legitimacy in Kingship, Religion, and the Arts*, De Gruyter, 2022, 320 pp.
75. 小林郁(共著)：皇學館大学研究開発推進センター史料編纂所編、小林郁、『神宮御師資料 山本大夫関係文書（資料叢書第 9 輯）』皇學館大学出版部、2022 年
76. 愛媛県歴史文化博物館編、服部光真『浄土寺・浄瑠璃寺と写し霊場』伊予鉄総合企画、2022 年、239 頁
77. 鎌倉佐保・高木徳郎・木村茂光編、守田逸人『荘園研究の論点と展望—中世史を学ぶ人のために』吉川弘文館、2022 年、323 頁

78. 吉村武彦・川尻秋生・松木武彦編、藤本誠『シリーズ 地域と古代日本 東国と信越』KADOKAWA、2022 年、337 頁
79. 就実大学吉備地方文化研究所編、苅米一志『吉備地方中世古文書集成（4）美作豊楽寺文書』就実大学吉備地方文化研究所、2023 年
80. 中島圭一編、千枝大志『日本の中世貨幣と東アジア』勉誠出版、2023 年、328 頁
81. 上野進(共編著)『弘法大師空海生誕 1250 年記念特別展 空海』香川県立ミュージアム、2023 年
82. 戸川点編、鎌倉佐保『平安時代はどんな時代かー摂関政治の実像』小径社、2023 年、312 頁
83. 川崎剛志・時枝務・徳永誓子・長谷川賢二編『論集 修験道の歴史 1 修験道の歴史とその組織』岩田書院、2023 年、340 頁
84. 川崎剛志・時枝務・徳永誓子・長谷川賢二編『論集 修験道の歴史 2 修験道の文化史』岩田書院、2023 年、314 頁
85. 小林郁(共著)『図録 ある伊勢御師の軌跡：新発見・橋村家伝来資料から』皇學館大学佐川記念神道博物館、2023 年
86. 吉村利男・茂木陽一・千枝大志他編、小林郁『“出入り”の地域史 求心・醸成・発信からみる三重』雄山閣出版、2023 年、304 頁
87. 千枝大志『街道今昔 三重の街道をいく』風媒社、2023 年、177 頁

88. 元興寺文化財研究所編、服部光真『菅原遺跡と大僧正行基』元興寺文化財研究所・元興寺、2023 年
89. 佐々木虔一・笹生衛・菊地照夫編、服部光真『古代の交通と神々の景観一港・坂・道』八木書店、2023 年、552 頁
90. 春田直紀編、湯浅治久『列島の中世地下文書』勉誠社、2023 年、272 頁
91. 宮治昭・肥田路美・板倉聖哲責任編集、佐々木守俊『アジア仏教美術論集 東アジアⅦ アジアの中の日本』中央公論美術出版、2024 年、704 頁
92. 四国遍路関係資料調査研究会編、守田逸人『四国遍路関係史料集 古代・中世編』2024 年、225 頁

産業財産権

なし

研究成果

以下、領域計画書（全体版）の「具体的な計画・方法」で示した4項目に対応させつつ主要な研究成果を挙げてゆく。なお、各研究成果の詳細は公式ホームページ（<https://religious-movements.com>）に掲載しているニュースレター（全3号）を参照されたい。

①各研究班の研究活動

各研究班は年度ごとにそれぞれ研究会を複数回実施し、メンバーの研究成果をもとに積極的に議論・意見交換を行った。

②分野横断型の研究体制

講演会シリーズ2021「中近世宗教史研究の最前線」として実施した4回の講演会のほか、公開セミナー2021「アクアマニーレと典礼空間の形成」、合同研究会2022、合同研究会2023を実施して、歴史学、美術史学、文学という分野の垣根を越える形で交流と議論を行った。

③研究班を架橋する研究ユニットの形成

学術変革領域研究の趣旨を活かし、新たな研究ユニットの形成を目指して実施した

のがシンポジウム 2021「東西中世における修道院・寺社の書物文化—制作・教育・世界観の変容」(2021 年 12 月 18 日、19 日)である。そこでは中世の宗教者が生み出したグーテンベルク以前の書物の特質を、ヨーロッパと日本を比較しながら検討した。その成果は日本語論文集として、大貫俊夫、赤江雄一、武田和久、苅米一志編著『修道制と中世書物——メディアの宗教比較史に向けて』(八坂書房、2024 年)として刊行した。

ワークショップ「ラテン・キリスト教と日本仏教における「もつれた修道制史」を目指して」(2023 年 1 月 7 日、8 日)は、プロジェクトのメンバーのほぼ全員が参加し、研究班を架橋して今後の修道制史のあり方を議論した。

2022 年と 2023 年の 2 回にわたり、国際中世学会(IMC、リーズ大学)でセッションを企画し、研究班を架橋する研究ユニットを組織して研究報告を行った。

④国際共同研究推進

2022 年 7 月には、Global Association for Historical Research of Monasticism (GARMon)が結成された。これには構想段階から本プロジェクトの領域研究者(大貫俊夫)と計画研究代表者(赤江雄一、武田和久)が深く関わっており、今後はドイツ、イタリア、ベルギー、アメリカ合衆国、アルゼンチン、オーストラリア等、世界中の研究者と連携して比較修道制研究を推進する予定である。

2023 年 11 月 25 日、26 日には中世修道院研究の第一人者 Steven Vanderputten（ベルギー・ヘント大学教授）と Emilia Jamrozak（イギリス・リーズ大学教授）を招聘し、国際カンファレンス Transcending the Tangibility and Intangibility: Religion and Media in Pre-Modern East and West Eurasia を実施した。その成果は英語論文集としての刊行を目指すとともに、下述する学術変革領域研究（A）など、今後展開される国際共同研究の基礎になることを見込んでいる。

2024 年 2 月には英語論文集 Pastoral Care and Monasticism in Latin Christianity and Japanese Buddhism (ca. 800-1650) を LIT Verlag より刊行した。

今後の展望

本プロジェクトは、学術変革領域研究の趣旨を最大限活かすべく、メンバーの個人研究を尊重しながら、つねに①研究班内外での異分野融合的研究の促進、②国際共同研究の推進、そして③若手研究者の支援に全力で取り組んだ。その狙いは十分に達成されたと考えており、同様のアプローチによりプロジェクトを発展させ、より規模が大きく包括的な内容を扱える学術変革領域研究（A）への申請を検討しているところである。その際は本プロジェクトの特徴である西洋史と日本史の協働に加え、ユーラシア大陸東部（中国文化圏）や中央部（イスラーム文化圏）も含め、前近代宗教メデ

ィア史研究の国際的な研究コアの構築に取り組むことになるだろう。